

(様式第 10)

福大病庶 153 号
令和 3 年 10 月 4 日

厚生労働大臣 殿

学校法人福岡大学
理事長 貫 正 義

福岡大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、令和 2 年度の業務に関して報告します。
記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒814-0180 福岡市城南区七隈八丁目19番1号
氏 名	学校法人 福岡大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

福岡大学病院

3 所在の場所

〒814-0180 福岡市城南区七隈七丁目45番1号	電話 (092) 801 - 1011
-------------------------------	-----------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="checkbox"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="checkbox"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
<input checked="" type="checkbox"/> 1 呼吸器内科 <input checked="" type="checkbox"/> 2 消化器内科 <input checked="" type="checkbox"/> 3 循環器内科 4 腎臓内科	
<input checked="" type="checkbox"/> 5 神経内科 6 血液内科 7 内分泌内科 8 代謝内科	
9 感染症内科 <input checked="" type="checkbox"/> 10 アレルギー疾患内科またはアレルギー科 <input checked="" type="checkbox"/> 11 ウマチ科	
診療実績 腎臓内科、血液内科、内分泌内科、感染症内科は内科として標榜している。	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 ①呼吸器外科 2消化器外科 3乳腺外科 4心臓外科 5血管外科 ⑥心臓血管外科 7内分泌外科 ⑧小児外科	
診療実績 消化器外科、乳腺外科、心臓外科、血管外科、内分泌外科は外科として標榜している。	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科 8産科 9婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科
--

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科 2矯正歯科 ③口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1リハビリテーション科	2病理診断科	3形成外科	4美容外科	5こう門科	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
60床	床	床	床	855床	915床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	513人	65人	520.8人	看護補助者	65人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	14人	5人	14.5人	理学療法士	24人	臨床検査技師	73人
薬 剤 師	71人	4人	72.7人	作業療法士	8人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	6人	その他	0人
助産師	60人	0人	60人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	907人	17人	918.5人	臨床工学士	15人	医療社会事業従事者	6人
准看護師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	41人
歯科衛生士	3人	2人	4.8人	歯科技工士	1人	事務職員	188人
管理栄養士	12人	2人	13.8人	診療放射線技師	51人	その他の職員	35人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	46人	眼 科 専 門 医	8人
外 科 専 門 医	44人	耳鼻咽喉科専門医	7人
精神科専門医	6人	放射線科専門医	10人
小児科専門医	18人	脳神経外科専門医	12人
皮膚科専門医	7人	整形外科専門医	23人
泌尿器科専門医	7人	麻酔科専門医	12人
産婦人科専門医	16人	救急科専門医	13人
		合 計	229人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (岩 崎 昭 憲) 任命年月日 令和元年12月1日

2018.9.17 医療安全管理者取得 (認定番号 180917183)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	650.8人	4.5人	655.3人
1日当たり平均外来患者数	1,212.9人	47.9人	1,260.8人
1日当たり平均調剤数	1127.0剤		
必要医師数	142人		
必要歯科医師数	4人		
必要薬剤師数	22人		
必要(准)看護師数	371人		

(注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	358.49m ²	鉄筋コンクリート	病床数	10床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] [移動式の場合]	床面積 台数	12.80m ² 5台	病床数	1床	
医薬品情報管理室	[専用室の場合] [共用室の場合]	床積 共用する室名	16.80m ²			
化学検査室	307.80m ²		(主な設備) 生化学自動分析、全自動化学発光免疫測定装置			
細菌検査室	109.90m ²		(主な設備) 自動血液培養・抗酸菌培養装置、嫌気チャンバー、細胞同定・感受性検査装置			
病理検査室	204.23m ²		(主な設備) 電動マイクロトーム、自動包埋脱水装置、凍結切片作成機クリオスタット、自動染色装置、遺伝子解析装置			
病理解剖室	132.80m ²		(主な設備) 解剖台、カラー臓器撮影装置、骨切装置			
研究室	5449.16m ²		(主な設備) 超小型カラーテレビ 他			
講義室	372.90m ²		室数	2室	収容定員	400人
図書室	2,246.16m ²		室数	3室	蔵書数	135,000冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率		87.7%	逆紹介率	65.6%
算出根拠	A: 紹介患者の数	14,435人		
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	12,234人		
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	1,928人		
	D: 初診の患者の数	18,657人		

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
横山 晋二	久留米大学病院	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
二田 水裕子	久留米大学病院		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
冨田 康裕	久留米大学病院		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
坪井 義夫	福岡大学病院		院内監査委員	<input checked="" type="radio"/> 有・無	1
林 覚竜	南蔵院		医療を受ける者その他の医療従事者以外の者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
委員の選定理由の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
公表の方法 福岡大学病院ホームページに掲載	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要 該当なし		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	3	56	下垂体性PRL分泌亢進症	5
2	筋萎縮性側索硬化症	10	57	クッシング病	1
3	脊髄性筋萎縮症	1	58	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	3
4	原発性側索硬化症	1	59	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	14
5	進行性核上性麻痺	16	60	下垂体前葉機能低下症	71
6	パーキンソン病	355	61	先天性副腎皮質酵素欠損症	5
7	大脳皮質基底核変性症	10	62	サルコイドーシス	39
8	ハンチントン病	1	63	特発性間質性肺炎	75
9	神経有棘赤血球症	1	64	肺動脈性肺高血圧症	10
10	シャルコー・マリートゥース病	2	65	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	6
11	重症筋無力症	76	66	リンパ脈管筋腫症	10
12	多発性硬化症/視神経脊髄炎	46	67	網膜色素変性症	11
13	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパシー	9	68	特発性門脈圧亢進症	2
14	封入体筋炎	1	69	原発性胆汁性肝硬変	51
15	多系統萎縮症	31	70	原発性硬化性胆管炎	3
16	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	44	71	自己免疫性肝炎	13
17	ライソゾーム病	16	72	クローン病	162
18	副腎白質ジストロフィー	1	73	潰瘍性大腸炎	219
19	ミトコンドリア病	1	74	好酸球性消化管疾患	3
20	もやもや病	43	75	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
21	HTLV-1関連脊髄症	19	76	若年性特発性関節炎	1
22	全身性アミロイドーシス	13	77	筋ジストロフィー	6
23	神経線維腫症	31	78	脊髄空洞症	3
24	天疱瘡	6	79	アイザックス症候群	1
25	膿疱性乾癬(汎発型)	18	80	脳表ヘモジデリン沈着症	1
26	高安動脈炎	11	81	ペリー症候群	1
27	巨細胞性動脈炎	1	82	前頭側頭葉変性症	3
28	結節性多発動脈炎	5	83	先天性無痛無汗症	1
29	顕微鏡的多発血管炎	13	84	レノックス・ガストー症候群	1
30	多発血管炎性肉芽腫症	3	85	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	1
31	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	11	86	スタージ・ウェーバー症候群	1
32	悪性関節リウマチ	3	87	結節性硬化症	2
33	パージャール病	3	88	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	6
34	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	89	マルファン症候群	4
35	全身性エリテマトーデス	105	90	ウィルソン病	3
36	皮膚筋炎/多発性筋炎	42	91	急速進行性糸球体腎炎	1
37	全身性強皮症	39	92	一次性ネフローゼ症候群	17
38	混合性結合組織病	16	93	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1
39	シェーグレン症候群	11	94	紫斑病性腎炎	3
40	成人スチル病	6	95	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1
41	再発性多発軟骨炎	3	96	オスラー病	1
42	ベーチェット病	35	97	閉塞性細気管支炎	1
43	特発性拡張型心筋症	26	98	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	2
44	肥大型心筋症	7	99	α 1-アンチトリプシン欠乏症	2
45	再生不良性貧血	9	100	副腎皮質刺激ホルモン不応症	1
46	自己免疫性溶血性貧血	2	101	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	1
47	特発性血小板減少性紫斑病	30	102	プロピオン酸血症	1
48	原発性免疫不全症候群	1	103	メチルマロン酸血症	1
49	IgA腎症	33	104	尿素サイクル異常症	1
50	多発性嚢胞腎	14	105	脂肪萎縮症	1
51	黄色靱帯骨化症	6	106	強直性脊椎炎	2
52	後縦靱帯骨化症	45	107	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	1
53	広範脊柱管狭窄症	5	108	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	5
54	特発性大腿骨頭壊死症	52	109	クリッペル・トレノニー・ウェーバー症候群	6
55	下垂体性ADH分泌異常症	8	110	後天性赤芽球癆	2
			111	嚢胞性線維症	1
			112	IgG4関連疾患	1
			113	好酸球性副鼻腔炎	7
			114	進行性ミオクローヌステんかん	1
			115	特発性多中心性キャッスルマン病	3

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
地域歯科診療支援病院歯科初診料	総合評価加算
歯科診療特別対応連携加算	後発医薬品使用体制加算1
歯科外来診療環境体制加算2	病棟薬剤業務実施加算1
地域歯科診療支援病院入院加算	病棟薬剤業務実施加算2
オンライン診療料	データ提出加算2
特定機能病院入院基本料(一般病棟7対1 入院基本料)	入退院支援加算1、3(地域連携診療計画加算、入院時支援加算、総合機能評価加算)
特定機能病院入院基本料(精神病棟13対1 入院基本料)	認知症ケア加算1
超急性期脳卒中加算	せん妄ハイリスク患者ケア加算
診療録管理体制加算1	精神科疾患診療体制加算
医師事務作業補助体制加算(30対1)	精神科急性期医師配置加算
急性期看護補助体制加算(25対1(5割以上)) (夜間100対1急性期看護補助体制加算)	排尿自立支援加算
看護職員夜間12対1配置加算1	地域医療体制確保加算
看護補助加算2(50対1)	救命救急入院料1(救急体制充実加算2、小児加算あり)【救命救急センターBユニット】
療養環境加算	救命救急入院料4(救急体制充実加算2、小児加算あり)【救命救急センターAユニット】
重症者等療養環境特別加算	特定集中治療室管理料1【SICU】
無菌治療室管理加算2	特定集中治療室管理料3(早期離床・リハビリテーション加算あり)【CCU】
緩和ケア診療加算	脳卒中ケアユニット入院医療管理料【SCU】
精神科身体合併症管理加算	総合周産期特定集中治療室管理料(母体・胎児集中治療室管理料)【MFICU】
精神科リエゾンチーム加算	総合周産期特定集中治療室管理料(新生児集中治療室管理料)【NICU】
栄養サポートチーム加算	新生児治療回復室入院医療管理料【GCU】
医療安全対策加算1	小児入院医療管理料1(注2プレイルーム加算あり)【本館3階南】
感染防止対策加算1(感染防止対策地域連携加算、抗菌薬適正使用支援加算)	小児入院医療管理料1(注2プレイルーム加算あり)【新館5階小児医療センター】
患者サポート体制充実加算	.
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	.
ハイリスク妊娠管理加算	.
ハイリスク分娩管理加算	.

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
外来栄養食事指導料 注2	在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物住居者訪問看護・指導料
遠隔モニタリング加算(※注5 心臓ペースメーカー指導管理料の加算)	在宅血液透析指導管理料
糖尿病合併症管理料	在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に掲げる遠隔モニタリング加算
がん性疼痛緩和指導管理料	在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
がん患者指導料イ	在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
がん患者指導料ロ	持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定
がん患者指導料ハ	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)
がん患者指導料ニ	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
外来緩和ケア管理料	骨髄微小残存病変量測定
移植後患者指導管理料(臓器移植後)	遺伝学的検査
糖尿病透析予防指導管理料	BRCA1/2遺伝子検査
小児運動器疾患指導管理料	がんゲノムプロファイリング検査
乳腺炎重症化予防ケア・指導料	先天性代謝異常症検査
婦人科特定疾患治療管理料	抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
腎代替療法指導管理料	HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
外来放射線照射診療料	ウイルス・細菌核酸多項目同時検出
ニコチン依存症管理料	検体検査管理加算(IV)
療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算	国際標準検査管理加算
ハイリスク妊産婦連携指導料1	遺伝カウンセリング加算
ハイリスク妊産婦連携指導料2	遺伝性腫瘍カウンセリング加算
がん治療連携計画策定料	時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
肝炎インターフェロン治療計画料	胎児心エコー法
外来排尿自立指導料	ヘッドアップティルト試験
薬剤管理指導料	人工膵臓検査、人工膵臓療法
医療機器安全管理料1	長期継続頭蓋内脳波検査
医療機器安全管理料2	長期脳波ビデオ同時記録検査1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
終夜睡眠ポリグラフィー(1及び2以外の場合 安全精度管理下で行うもの)	連携充実加算
脳波検査判断料1	心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)【初期加算含む】
単線維筋電図	脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)【初期加算含む】
神経学的検査	運動器リハビリテーション料(Ⅰ)【初期加算含む】
補聴器適合検査	呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)【初期加算含む】
ロービジョン検査判断料	摂食機能療法 注3摂食嚥下支援加算
コンタクトレンズ検査料1	がん患者リハビリテーション料(Ⅰ)
小児食物アレルギー負荷検査	リンパ浮腫複合的治療料
内服・点滴誘発試験	救急患者精神科継続支援料
CT透視下気管支鏡検査加算	認知療法・認知行動療法1
経気管支凍結生検法	精神科作業療法
ポジロン断層撮影	精神科ショート・ケア「大規模なもの」
ポジロン断層・コンピューター断層複合撮影	精神科デイ・ケア「大規模なもの」
冠動脈CT撮影加算	抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料)
外傷全身CT加算	医療保護入院等診療料
心臓MRI撮影加算	静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)
CT撮影及びMRI撮影	人工腎臓(慢性維持透析を行った場合1)
血流予備量比コンピューター断層撮影	下肢末梢動脈疾患指導管理加算
乳房MRI撮影加算	導入期加算2及び腎代替療法実績加算
小児鎮静下MRI撮影加算	透析液水質確保加算
頭部MRI撮影加算	慢性維持透析濾過加算
画像診断管理加算3	心不全に対する遠赤外線温熱療法
遠隔画像診断	歩行運動処置(ロボットスーツによるもの)
抗悪性腫瘍剤処方管理加算	センチネルリンパ節加算
無菌製剤処理料	組織拡張器による再建術(乳房(再建時手術)の場合に限る。)
外来化学療法加算1	四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に規定する処理骨再建加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
椎間板内酵素注入療法	肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)
頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る)	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む)及び脳刺激装置交換術	同種死体肺移植術
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	生体部分肺移植術
仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術	食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
角膜移植術・内皮移植加算	縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
羊膜移植術(学会認定施設書の提出の必要性)	内視鏡下筋層切開術
緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	胸腔鏡下弁形成術
網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	胸腔鏡下弁置換術
網膜再建術	経カテーテル大動脈弁置換術
人工中耳植込術	胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	経皮的中隔心筋焼灼術
内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む)	両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)・下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)	両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)
医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)	植込型除細動器移植術(心筋リードを用いる場合)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いる場合)
医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮付属器腫瘍摘出術)	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)
乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))	大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)	経皮的下肢動脈形成術
乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)	腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	輸血管理料(Ⅱ)
腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	貯血式自己輸血管理体制加算(※輸血管理料の加算)
バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	自己クリオプレシピテート作製術(用手法)
胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	同種クリオプレシピテート作製術
体外衝撃波胆石破碎術	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
腹腔鏡下肝切除術	胃瘻造設時嚥下機能評価加算
体外衝撃波膵石破碎術	医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	麻酔管理料(Ⅰ)
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	麻酔管理料(Ⅱ)
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	放射線治療専任加算
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	外来放射線治療加算
腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	体外照射呼吸性移動対策加算
体外衝撃波腎・尿管結石破碎術	高エネルギー放射線治療
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	1回線量増加加算(全乳房照射・前立腺照射)
腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	強度変調放射線治療(IMRT)
同種死体腎移植術	画像誘導放射線治療(IGRT)
生体腎移植術	定位放射線治療
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	定位放射線治療呼吸性移動対策加算(その他)
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	病理診断管理加算(2)
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	悪性腫瘍病理組織標本加算
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	保険医療機関間の連携による病理診断
腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	歯科疾患管理料の注11に規定する総合医療管理課加算及び歯科治療時医療管理料
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)	医療機器安全管理料(歯科)
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	有床義歯咀嚼機能検査2の口及び咬合圧検査
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	精密触覚機能検査
胎児輸血術	睡眠時歯科筋電図検査

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・同種死体腓島移植術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
 (注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	腫瘍・血液・感染症内科、腎泌尿器外科、消化器外科、脳神経外科、消化器内科、乳腺外科、放射線科、歯科口腔外科との病理臨床カンファレンスに加え、病理解剖後の臨床病理カンファレンスを合わせて年間約110回行っている。
剖 検 の 状 況	剖検症例数 13 例 / 剖検率 3.8 %

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
新規非ペプチド型アンジオテンシンIIタイプI受容体選択的作動薬の開発	三浦伸一郎	循環器内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
次世代型HDL模倣ペプチドの多機能性と安全性の検証	朔啓二郎	循環器内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
心房細動患者の至適降圧レベルを検討する無作為化比較試験	有馬久富	衛生・公衆衛生学	4,940,000	補委	日本学術振興会
心臓リハビリテーションと心肺運動負荷検査(CPX)による心血管疾患の予後予測	北島研	卒後臨床研修センター	1,170,000	補委	日本学術振興会
ナノバブル化アポA-I模倣ペプチドと超音波による新規動脈硬化治療法の開発	今泉聡	医学系研究・生命医療倫理部門	1,820,000	補委	日本学術振興会
アンジオテンシンII受容体拮抗薬/ネフリライシン阻害薬の動脈硬化抑制メカニズム	末松保憲	循環器内科	1,040,000	補委	日本学術振興会
「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」診断基準・治療指針改訂プロジェクト	平井郁仁	消化器内科	400,000	補委	厚生労働省
成人T細胞性白血病/リンパ腫の消化管病変における臨床病理学的検討	石橋英樹	消化器内科	500,000円	補委	臨床研究奨励基金
一般住民における睡眠負債と睡眠時無呼吸症候群が心血管病とCKDに及ぼす影響	吉村 力 (研究代表者)	呼吸器内科	500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
口腔内および腸内細菌叢と冠動脈石灰化との関連を解明する疫学研究	吉村 力 (研究分担者)	呼吸器内科	50,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
一般住民における夜間頻尿の包括的病態解明	吉村 力 (研究分担者)	呼吸器内科	120,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
心房細動患者の至適降圧レベルを検討する無作為化比較試験	吉村 力 (研究分担者)	呼吸器内科	100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
病型別に慢性腎臓病の発症および増悪に関与する腸内菌叢異常を解明する	吉村 力 (研究分担者)	呼吸器内科	50,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
呼吸器腫瘍における薬物療法による免疫原性細胞死誘導能の探索研究	井上博之 (研究代表者)	呼吸器内科	2,845,210	補委	独立行政法人日本学術振興会
研究助成のため	井上博之 (研究代表者)	呼吸器内科	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会

小計15

自殺未遂者等支援拠点医療機関整備事業	衛藤 暢明	精神神経科	1,128,000	補委	厚生労働省
日本における新型コロナウイルス感染症流行下での自殺未遂者の背景因子の分析	衛藤 暢明	精神医学教室	7,700,000	補委	厚生労働省
iPS細胞由来オータプス培養標本によるシナプス機能評価法開発	廣瀬 伸一	小児科	4,298,623	補委	日本私立学校振興・共済事業団
多面的アプローチによる難治性てんかんの分子病態に基づく革新的創薬基盤研究	廣瀬 伸一	小児科	2,340,000	補委	日本学術振興会
疾患特異的iPS細胞を活用した抗難治性てんかん薬シーズの探索	廣瀬 伸一(分担)	小児科	4,200,000	補委	国立大学法人九州大学
iPS細胞由来ニューロンの単一細胞解析を可能とするデバイス構築	廣瀬 伸一(分担)	小児科	700,000	補委	日本学術振興会
iPS細胞を用いた希少疾患の研究促進のための研究者マッチング	廣瀬 伸一(分担)	小児科	6,153,847	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
表現型がメンデル遺伝則に従わないヒト疾患のエピジェネティクス研究	廣瀬 伸一(分担)	小児科	500,000	補委	日本学術振興会
遺伝学的アプローチによりドリャベ症候群の分子ネットワークを明らかにする	石井 敦士	小児科	1,700,000	補委	日本学術振興会
良質なエビデンスに基づく急性脳症の診療に向けた体制整備	石井 敦士(分担)	小児科	300,000	補委	厚生労働省
稀少てんかんに関する包括的研究	石井 敦士(分担)	小児科	700,000	補委	厚生労働省
KCNQ2変異マウスを用いBFNEとEIBEの病態解明に挑む	井原 由紀子	小児科	2,200,000	補委	日本学術振興会
川崎病冠動脈瘤発症予防のための急性期治療難治例予測診断法開発に直結するエビデンス創出研究	吉兼 由佳子	小児科	6,128,440	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
難治性小児消化器疾患の医療水準向上および移行期・成人期のQOL向上に関する研究	廣瀬 龍一郎	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	200,000	補委	厚生労働省(分担)
呼吸器外科におけるビタミンB2に特化した蛍光ナビゲーションシステムの開発・検証	早稲田 龍一	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	910,000 (うち間接経費210,000円)	補委	日本学術振興会(代表)
腸管神経節細胞僅少症への幹細胞移植における大建中湯を用いた治療戦略の開発	伊崎 智子	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	130,000 (うち間接経費30,000円)	補委	日本学術振興会(分担)

特発性大腿骨頭壊死症の疫学調査・診断基準・重症度分類の改訂と診療ガイドライン策定を目指した大規模他施設研究	山本卓明 (分担)	整形外科	100,000	補 委	厚生労働省
関節内脆弱性骨折による関節破壊のメカニズムの解明	山本卓明	整形外科	4,160,000	補 委	文部科学省・ 日本学術振興 会
高齢者における外傷性腱板断裂に関する臨床病理学的検討	伊崎輝昌	整形外科	3,000,000	補 委	JA共済交通 事故医療研究 助成
関節内サイトカイン解析による高位脛骨骨切り術の有効性の検討	前山彰	整形外科	500,000	補 委	公益財団法人 臨床研究奨励 基金
パーキンソン病重症度を示す生体指標の確立による脳深部刺激条件最適化方法開発	森下登史	脳神経外科	900,000	補 委	文部科学省
神経皮膚症候群におけるアンメットニーズを満たす多診療科連携診療体制の確立	今福 信一	皮膚科	1,000,000	補 委	厚生労働省
薬事申請をめざした治療法のない神経線維腫症Ⅰ型の皮膚腫瘍に対する有効で安全な局所大量投与療法薬開発のための医師主導治験	今福 信一	皮膚科	2,106,000	補 委	日本医療研究 開発機構 (AMED)
基盤研究C「一般住民における夜間頻尿の包括的病態解明」	中村 信之	腎泌尿器外科	1,000,000	補 委	科学研究費補 助金
ウルトラファインバブルによるDDSを活用した難治性卵巣癌に対する核酸医薬の開発	宮本新吾	産婦人科	700,000	補 委	文部科学省基 盤研究C
腔マイクロバイオームプロファイリングによる早産予防・治療法の開発	漆山大知	産婦人科	600,000	補 委	文部科学省若 手
局所細菌フローラの活動性による早産発症の制御システムの解明	宮田康平	産婦人科	900,000	補 委	文部科学省若 手
子宮内感染の予測と羊水穿刺の適応を診断する方法の開発	倉員正光	産婦人科	2,400,000	補 委	文部科学省若 手
クオラムセンシングに着目した早産予防のための創薬開発	宮田康平	産婦人科	800,000	補 委	公益財団法人 柿原科学技術 研究財団研究 助成金
腔内細菌叢診断に基づく子宮内感染ハイリスク症例の治療法の開発	漆山大知	産婦人科	1,500,000	補 委	一般財団法人 今井精一記念 財団
腔内細菌叢診断に基づく子宮内感染ハイリスク症例の治療法の開発	漆山大知	産婦人科	200,000	補 委	一般財団法人 員原守一医学 振興財団

アデノウイルス眼感染症 発症メカニズムの分子生 物学的解析と治療薬剤開 発の研究	内尾英一	眼科	1,000,000	補 委	文部科学省
定量的画像バイオマー カーとしてのMRE実現に 向けた評価法確立とデー タベース作成	吉満研吾	放射線科	470,000	補 委	文科省科研費 基盤研究(B)
FDG及びMIBGシンチを 用いた肺移植前後の右心 機能、心臓交感神経機能 の研究	長町茂樹	放射線部	1,300,000	補 委	文科省科研費 基盤研究(C)
糸球体内皮機能障害によ る糖尿病性腎臓病発症・ 進展機構の解明	川浪大治	内分泌・糖尿病内科	400,000	補 委	日本学術振興 会
ファーストメッセンジャー としてのリンとその感知機 構の解明	高士祐一	内分泌・糖尿病内科	1,300,000	補 委	日本学術振興 会
副腎ホルモン産生異常に 関する調査研究	田邊真紀人	内分泌・糖尿病内科	400,000	補 委	厚生労働省
病型別に慢性腎臓病の発 症および増悪に関する 腸内細菌叢異常を解明す る	安野哲彦	腎臓・膠原病内科	1,560,000	補 委	日本学術振興 会科学研究費 補助金基盤 (C)
最終糖化産物(AGEs)の 慢性腎臓病に対する影響 を解明する一疫学的視点 より一	伊藤建二	腎臓・膠原病内科	1,950,000	補 委	日本学術振興 会科学研究費 補助金基盤 (C)
HAMならびに類縁疾患の 患者レジストリを介した診 療連携モデルの構築によ るガイドラインの活用促進 と医療水準の均てん化に 関する研究	坪井 義夫	脳神経内科	350,000	補 委	厚生労働省
神経変性疾患領域におけ る基盤的調査研究	坪井 義夫	脳神経内科	950,000	補 委	厚生労働省
パーキンソン病の起因とな る腸管α Synuclein以上蓄 積に対する腸内細菌層の 関与の解明	坪井 義夫	脳神経内科	4,290,000	補 委	AMED
「統合医療」に係る医療の 質向上・科学的根拠収集 研究事業. 軽度アルツハ イマー型認知症を対象と する八味地黄丸の認知機 能に対する有効性と安全 性を確認する探索的オー プン標準治療対照無作為 化割付多施設共同研究	坪井 義夫	脳神経内科	651,303	補 委	AMED
プリオン病の早期診断基 準の作成を目指した新た なエビデンス創出とその 検証に用いる遺伝性プリ オン病未発症例の臨床調 査と画像・生体材料の収 集	坪井 義夫	脳神経内科	910,000	補 委	AMED
HAMの治療薬開発を促 進する代替エンドポイント としてのバイオマーカーの 実用化研究	坪井 義夫	脳神経内科	390,000	補 委	AMED

プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究	坪井 義夫	脳神経内科	500,000	補委	厚生労働省
脳梗塞の発症および機能回復に関連する腸内細菌の検討ー疫学的視点よりー	緒方 利安	脳神経内科	1,690,000	補委	日本学術振興会
iPS細胞を用いたPerry症候群患者モデルの確立	三嶋 崇靖	脳神経内科	910,000	補委	日本学術振興会
Perry症候群におけるダイニン-ダイナクチン系とTDP-43間の相互作用の破綻	河田 純一	神経疾患遠隔診療研究講座	1,430,000	補委	日本学術振興会
頭部単純MRI検査を用いた、神経変性疾患の新しい画像診断方法の確立	藤岡 伸助	脳神経内科	500,000	補委	臨床研究奨励基金
頸動脈プラークにおける新生血管とプラーク内出血の関連について	竹下 翔	神経疾患遠隔診療研究講座	500,000	補委	臨床研究奨励基金
Liquid biopsyと腫瘍生検の遺伝子変異パターンによる直腸癌治療の最適化	長谷川 傑	消化器外科	900,000	補委	文部科学省
免疫チェックポイント阻害剤の効果予測、治療選択に有用なバイオマーカーの同定	山田 哲平	消化器外科	600,000	補委	文部科学省
トロンボモジュリン製剤を用いた新たな脳梗塞治療戦略の検証	仲村 佳彦	救命救急センター	1,000,000	補委	日本学術振興会
難治性小児消化器疾患の医療水準向上および移行期・成人期のQOL向上に関する研究	廣瀬 龍一郎	総合周産期母子医療センター	200,000	補委	厚生労働省
漢方薬麻黄湯による抗RSウイルス作用機序とその有効成分の解析	鍋島 茂樹	総合診療部	4,420,000	補委	文部科学省
細胞診による中皮腫診断に関する研究:遺伝子変異の病理診断システムへの応用 平成31年度～平成33年度	鍋島 一樹	病理部	1,400,000	補委	文科省科研費基盤研究(C)
令和2年度石綿関連疾患に係る医学的所見の解析調査業務(中皮腫の遺伝子異常に基づく診断法の開発に関する調査編)	鍋島 一樹	病理部	5,400,000	補委	環境省
側頭骨扁平上皮癌の網羅的組織解析に基づく新規統合的治療戦略の開発	鍋島 一樹 (分担)	病理部	100,000	補委	文科省科研費基盤研究(B)
禁煙に伴う腸内細菌叢を介したHDL機能制御のメカニズムの解明	高田 耕平	臨床検査部・循環器内科(兼務)	1,100,000	補委	日本学術振興会
情報通信技術を用いた遠隔栄養指導有用性の検討	高田 耕平	臨床検査部・循環器内科(兼務)	400,000	補委	日本学術振興会

非抗菌薬を用いた持続感染細胞の駆逐を目指したMRSAバイオフィルムの制御	高田 徹	感染制御部	1,218,528	補 委	学術研究助成基金助成金基盤研究(C)(一般)
神経筋疾患の嚥下障害が栄養障害に及ぼす影響に関する研究	梅本 丈二	歯科口腔外科	1,170,000	補 委	日本学術振興会
動脈硬化性疾患患者の口腔内および腸内細菌叢の関連性について	近藤 誠二	歯科口腔外科	4,000,000	補 委	日本歯科医学会
パーキンソン病患者の嚥下機能と服薬状況に関する調査研究	梅本 丈二	歯科口腔外科	500,000	補 委	日本老年歯科医学会

計80

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭者名の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Shiga Y, Morii J, Idemoto Y, et al.	循環器内科	A Coronary Artery Calcium Score of Zero in Patients Who Have Undergone Coronary Computed Tomography Angiography Is Associated With Freedom From Major Adverse Cardiovascular Events	J Clin Med Res 12(10):662-667, 2020.10	Original Article
2	Kato Y, Iwata A, Futami M, et al.	循環器内科	Impact of visit-to-visit variability in blood pressure on coronary plaque as assessed by integrated backscatter intravascular ultrasound	Clin Exp Hypertens 42(7):608-613, 2020.10	Original Article
3	Tashiro K, Kuвано T, Ideishi A, et al.	循環器内科	Sacubitril/Valsartan Inhibits Cardiomyocyte Hypertrophy in Angiotensin II-Induced Hypertensive Mice Independent of a Blood Pressure-Lowering Effect	Cardiol Res 11(6):376-385, 2020.12	Original Article

小計3件

4	Tashiro K, Inoue H, Shiga Y, et al.	循環器内科	Associations Between High Levels of High- Density Lipoprotein Cholesterol and the Presence and Severity of Coronary Artery Disease in Patients Who Have Undergone Coronary Computed Tomography Angiography	J Clin Med Res 12(11):734- 739, 2020.11	Original Article
5	Sugihara M, Mine K, Futami M, et al.	循環器内科	Efficacy of Super Slow Inflation as Lesion Preparation for Drug- Coated Balloons in Femoropopliteal Lesions	Circ Rep 2(11):682-690, 2020.10	Original Article
6	Imaizumi T, Shiga Y, Idemoto Y, et al.	循環器内科	Associations between the psoas major muscle index and the presence and severity of coronary artery disease	Medicine (Baltimore) 99(28): e21086, 2020.7	Original Article
7	Ideishi A, Suematsu Y, Tashiro K, et al.	循環器内科	Changes in serum levels of angiopoietin-like protein-8 and glycosylphosphatidylinosit ol-anchored high-density lipoprotein binding protein 1 after ezetimibe therapy in patients with dyslipidemia	Clinica Chimica Acta 510 675-680, 2020.11	Original Article
8	Motozato K, Suematsu Y, Norimatsu K, et al.	循環器内科	Reactive Hyperemia Index Associated With Atherosclerotic Cardiovascular Disease Under Treatment for Lifestyle Diseases	J Clin Med Res 12(5):293-299, 2020.5	Original Article

小計5件

9	Okamura K, Takamiya Y, Mori K, et al.	循環器内科	Add-on aliskiren treatment can decrease blood pressure but requires attention to risks of renal impairment and hyperkalemia Chikushi Anti-Hypertension Trial-Rasilez® (CHAT-Ras)	Clin Exp Hypertens 42(6):545-552, 2020.8	Original Article
10	Okamura K, Okuda T, Takamiya Y, et al.	循環器内科	Elevated chymase-dependent angiotensin II-forming activity in circulating mononuclear leukocytes was observed in the patient of atrial fibrillation	Heart Vessels 35(8):1116-1124, 2020.8	Original Article
11	Takamiya Y, Kobayashi K, Kudo T, et al.	循環器内科	Comprehensive Efficacy of the Dipeptidyl Peptidase 4 Inhibitor Alogliptin in Practical Clinical Settings: A Prospective Multi-Center Interventional Observational Study	J Clin Med Res 12(7):423-430, 2020.7	Original Article
12	Norimatsu K, Gondo K, Kusumoto T, et al.	循環器内科	Association between lipid profile and endothelial dysfunction as assessed by the reactive hyperemia index	Clin Exp Hypertens 43(2):125-130, 2021.2	Original Article
13	Nakamura M, Ike A, Kato Y, et al.	循環器内科	Differences in lesion characteristics and patient background associated with the medium-term clinical outcomes of bare-metal and first-, second- and third-generation drug-eluting stents	Heart Vessels 36(2):211-222, 2021.2	Original Article

小計5件

14	Tsukihashi Y, Shiga Y, Suematsu Y, et al.	循環器内科	Presence and severity of coronary artery disease in patients who achieved intensive blood pressure reduction at the time of coronary computed tomography angiography	Hypertens Res 44(2):206-214, 2021.2	Original Article
15	Inoue H, Shiga Y, Tashiro K, et al.	循環器内科	Association Between the Level of Low-Density Lipoprotein Cholesterol and Coronary Atherosclerosis in Patients Who Have Undergone Coronary Computed Tomography Angiography	Cardiol Res 12(1):10-15, 2021.2	Original Article
16	Matsuzaki K, Fukushima N, Saito Y, et al.	循環器内科	The Effects of Long-Term Nutrition Counseling According to the Behavioral Modification Stages in Patients with Cardiovascular Disease	Nutrients 13(2):414, 2021.1	Original Article
17	Ishibashi H, Nimura S, Hirai F, et al	消化器内科	Endoscopic and clinicopathological characteristics of colorectal T/NK cell lymphoma.	Diagn Pathol 15(1):128, 2020.10.21 (オンライン)	Original Article
18	Tanaka T, Takata K, Kunimoto H, et al	消化器内科	The Efficacy and Therapeutic Outcome of Bipolar Radiofrequency Ablation for the Treatment for Hepatocellular Carcinoma in the Real-World Setting, Compared with Monopolar Radiofrequency Ablation Conducted during the Same Period.	Oncology 98(12):859-868, 2020.8.14	Original Article

小計5件

19	Kunimoto H, Shakado S, Tanaka T, et al	消化器内科	Reduction in Tumor Stain at 2 Weeks after Treatment Initiation Is a Predictor of the Efficacy of Lenvatinib in Patients with Unresectable Hepatocellular Carcinoma.	Oncology 98(11):779-786,2020.9.2	Original Article
20	Yokoyama K, Tsuchiya N, Yamauchi R, et al	消化器内科	Exploratory Research on the Relationship between Human Gut Microbiota and Portal Hypertension.	Intern Med. 59(17):2089-2094,2020.9.1	Original Article
21	Yi-Ling Ko, Takata K, Tanaka T, et al	消化器内科	Unresectable Ectopic Hepatocellular Carcinoma Treated with Sorafenib.	Case Reports in Gastroenterology 14:226-233, 2020.4.27	Case report
22	Takata K, Ishii F, Uchida Y, et al	消化器内科	Two Cases of Hepatocellular Carcinoma Arising Over 20 Years after a Sustained Virologic Response Following Interferon Therapy for Chronic Hepatitis C.	Intern Med 59 (15) :1855-1860,2020.8.1	Case report
23	Yokoyama K, Yamauchi E, Uchida Y, et al	消化器内科	Hepatitis B virus core-related antigen is useful for surveillance of hepatocellular carcinoma recurrence in a patient with occult hepatitis B virus infection: Case report.	Clinical Case Reports 8(12):3031-3036,2020.9.16	Case report
24	Yamauchi R, Takeyama Y, Takata K, et al	消化器内科	Hepatitis B Virus Reactivation after Receiving Cancer Chemotherapy under Administration of Leuprorelin Acetate	Intern Med 59:1163-1166, 2020.5.1	Case report

小計6件

25	Takata K, Yamauchi E, Shakado S, et al	消化器内科	Horizontal Transmission of Hepatitis B Virus Genotype C Among Members of a Wrestling Club in Japan	Am J Case Rep 2020.8 (オンラ イン)	Case report
26	Yokoyama K, Miyayama T, Uchida Y, et al	消化器内科	Novel Endoscopic Therapy for Gastric Varices Using Direct Forward-Viewing Endoscopic Ultrasonography	Case Rep Gastroenterol. 15(1):28-34. 2021.1.21	Case report
27	On R, Matsumoto T, Kushima H, et al.	呼吸器内科	Prevalence of viral infection in acute exacerbation of interstitial lung diseases in Japan.	Respir Investig · 2020.8.1; 58(6):473-478. doi:10.1016/j.r esinv.2020.06. 006. Online ahead of print. PMID:	Original Article
28	Fujita T, Ihara Y, Hayashi H, et al.	小児科	Coffin - Siris syndrome with bilateral macular dysplasia caused by a novel exonic deletion in <i>ARID1B</i>	Congenit Anom 07.02, 2020; Vol.60(6): 189- 193	Case report
29	Yoshikane Y, Miyamoto T, Hashimoto J, et al.	小児科	Predicting Very Severe Kawasaki Disease Who Does Not Respond to Initial Steroid Combination Therapy: A Prospective Cohort Study	Clinical Pediatrics May 20, 2020; Vol.5(2):164	Original Article
30	Hirose S, Tanaka Y, Shibata M, et al.	小児科	Application of Induced Pluripotent Stem Cells in Epilepsy	Mol Cell Neurosci 10, 2020; Vol.108:103535 (online)	Review
31	Ueda Y, Sato T, Nakamura R et all	呼吸器・乳腺内分泌・小 児外科	Evaluation of regenerated tracheal cilia function on a collagen-conjugated scaffold in a canine model.	Interact Cardiovasc Thorac Surg 31(5): 644-649, 2020.11	Original Article

小計7件

32	<u>Sato T</u> , Iwasaki A, Yutaka Y et all	呼吸器・乳腺内分泌・小 児外科	Is left-side DaVinci™ procedure challenging? Initial experiences of a single institute.	Gen Thorac Cardiovasc Surg 68(11): 1285- 1289, 2020.11	Original Article
33	<u>Hirose R</u> , Shirai T, Yamada T et all	呼吸器・乳腺内分泌・小 児外科	Laparoscopic-assisted Stamm-gastrostomy: technical modifications to ease suturing inside the minimal trocar site.	Surg Today 50(7): 783- 786, 2020.7	Original Article
34	<u>Shiraishi T</u> , Yanagida H, Koga Y et all	呼吸器・乳腺内分泌・小 児外科	Severe scoliosis with an impaired pulmonary allograft function after pediatric unilateral lung transplantation.	Gen Thorac Cardiovasc Surg 69(2): 375- 378, 2021.2	Case report
35	<u>Shiraishi T</u> , Hiratsuka M, Miyahara S et all	呼吸器・乳腺内分泌・小 児外科	Pulmonary artery "conduit" reconstruction using bovine pericardium following long-segment sleeve resection: a unique "in situ tailor-made" sewing method.	Gen Thorac Cardiovasc Surg 68(4): 411- 413, 2020.4	Case report
36	<u>Waseda R</u> , Shiraishi T, Miyahara S et all	呼吸器・乳腺内分泌・小 児外科	A successful surgical tracheobronchoplasty in a case of expiratory collapse of central airways associated with tracheobronchomalacia in a severely deformed single lung patient.	Gen Thorac Cardiovasc Surg doi:10.1007/s1 1748-020- 01542- 9,2020.11.9	Case report
37	<u>Sato T</u> , Yutaka Y, Nakamura T et all	呼吸器・乳腺内分泌・小 児外科	First clinical application of radiofrequency identification (RFID) marking system—Precise localization of a small lung nodule.	JTCVS Techniques 4: 301-304, 2020.9.24	Case report
38	<u>Miyahara S</u> , Hamaji M, Aoyama A et all	呼吸器・乳腺内分泌・小 児外科	Backtable bronchoplasty for donor tracheal bronchus in lung transplantation.	Gen Thorac Cardiovasc Surg 68(12): 1536- 1538, 2020.12	Case report

小計7件

39	Hagio T, Yoshimura I, Kanazawa K, et al.	整形外科	Morphology of Anterior Talofibular Ligament After Arthroscopic Lateral Ankle Ligament Repair.	Foot Ankle Int.2020.8 ;41(8):993- 1001.	Original Article
40	Matsunaga T, Kamachi Y, Kinoshita K, et al.	整形外科	Magnetic Resonance Imaging Assessment of Abductor Muscles Shortly After Curved Periacetabular Osteotomy.	J Arthroplasty. 2021.2 ;36(2):429- 433.	Original Article
41	Hagio T, Yoshimura I, Kanazawa K, et al.	整形外科	Risk factors for recurrence of hallux valgus deformity after minimally invasive distal linear metatarsal osteotomy.	J Orthop Sci. 2021.1 8:S0949- 2658(20)3037 9-1.	Original Article
42	Miyake S, Tamai M, Takeuchi Y, et al.	整形外科	Where and what damage occurs at the acromial undersurface in patients with rotator cuff tears?	J Shoulder Elbow Surg.2020.10 ;29(10):2065- 2071.	Original Article
43	Kotani N, Morishita T, Saita K, et al.	リハビリテーション部	Feasibility of supplemental robot- assisted knee flexion exercise following total knee arthroplasty	J Back Musculoskelet Rehabil. 2020;33(3):41 3-421. 2020.6	Original Article
44	Oda T, Maeyama A, Ishimatsu T, et al	整形外科	Distal femoral osteotomy for genu valgum deformity caused by malunited Hoffa fracture.	BMJ Case Rep. 2021.2 4;14(2):e2386 15	Case report
45	Nakayama S, Nishio J, Nakatani K, et al	整形外科	Acute Attack of Pseudogout with the Wide Lesion in Lumbar Spondylolytic Spondylolisthesis.	Anticancer Res. 2020.8;40(8):4 373-4377.	Case report

小計7件

46	Kamada S, Kise N, Kinoshita K,	リハビリテーション部	Femoral Neck Fracture in a Hemodialysis Patient after Liver Transplantation: A Case Report	Prog Rehabil Med. 2021.1 22;6:20210003 (オンライン)	Case report
47	Nakayama S, Nishio J, Aoki M, et al	整形外科	Ubiquitin-specific Peptidase 6 (USP6)- associated Fibroblastic/Myofibroblasti c Tumors: Evolving Concepts.	Cancer Genomics Proteomics.20 21.3;18(2):93- 101	Review
48	Nakayama S, Nishio J, Aoki M, et al	整形外科	An Update on Clinicopathological, Imaging and Genetic Features of Desmoplastic Fibroblastoma (Collagenous Fibroma).	In Vivo. 2021.1-2 ,35(1):69-73.	Review
49	Ueda Y, Miyazaki M, Mashima K, et al.	福岡大学病院薬剤部	The Effects of Silver Sulfadiazine on Methicillin-Resistant Staphylococcus aureus Biofilms.	Microorganis ms · 8(10):1551,20 20.8.8	Original Article
50	Jimi S, Takagi S, De Francesco F,et al.	福岡大学医学部病態構造 系総合研究室	Acceleration of Skin Wound-Healing Reactions by Autologous Micrograft Tissue Suspension	medicina · 56(7):321,202 0.6.29	Original Article
51	Takagi S,Oyama T,Jimi S,et al.	福岡大学医学部形成外科 学	A Novel Autologous Micrografts Technology in Combination with Negative Pressure Wound Therapy (NPWT) for Quick Granulation Tissue Formation in Chronic/Refractory Ulcer.	Healthcare (Basel) · 8(4):513,2020. 11.25	Case report
52	Takagi S,Hamatak e D,Morinaga E,et al.	福岡大学医学部形成外科 学	Nuss procedure for pectus excavatum in a patient with cleidocranial dysplasia.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. · 69(3):538- 541,2021.3	Case report

小計7件

53	Kotani N, Morishita T, Yatsugi A et al	リハビリテーション部	Biofeedback Core Exercise Using Hybrid Assistive Limb for Physical Frailty Patients with or Without Parkinson's Disease	Frontiers in Neurology · 11:1-10, 2020.4.9	Original Article
54	Hyakutake K, Morishita T, Saita K et al	リハビリテーション部	Feasibility of single and combined with other treatments using transcranial direct current stimulation for chronic stroke: A pilot study	SAGE Open Medicine 8:1- 9, 2020 .6	Original Article
55	Saita K, Morishita T, Arima H et al	リハビリテーション部	Qualitative and Comparative Cortical Activity Data Analyses from a Functional Near- Infrared Spectroscopy Experiment Applying Block Design	Journal of Visualized Experiments 1-5, 2020.12	Original Article
56	Hitoshi Matsumura , Hideichi Wada, Hiromitsu Teratani , et al.	心臓血管外科	Transgraft embolization by using long needle for the treatment of type II endoleaks after endovascular abdominal aortic repair	Journal of Vascular Surgery Cases and Innovative Techniques 6(4)590-594 2020.8	Original Article
57	Hiromitsu Teratani, Hitoshi Matsumura, Yuta Sukehiro, et al.	心臓血管外科	Hybrid zone zero debranching thoracic endovascular aortic repair of ascending aortic injury after surgery and radiotherapy for breast cancer	Journal of Vascular Surgery Cases and Innovative Techniques7(1) 93-96 2020.12	Case report
58	Go Kuwahara, Tadashi Tashiro	心臓血管外科	Current Status of Off- Pump Coronary Artery Bypass	Annals of Thoracic and Cardiovascula r Surgery 26 125-132 2020.5	Review

小計6件

59	Sato E, Yano N, Fujita Y, et al.	皮膚科	Interleukin-17A suppresses granular layer formation in a 3-D human epidermis model through regulation of terminal differentiation genes.	J Dermatol. 2020.4 ; 47(4): 390-396	Original Article
60	Bayaraa B, Arima H, Imafuku S.	皮膚科	Body mass index in psoriatic patients with or without familial psoriasis.	J Dermatol. 2020.4 ; 47(4): 402-404	Original Article
61	Koga M, Yoshida Y, Ehara Y, et al.	皮膚科	Medical costs of surgical intervention for hospitalized patients with neurofibromatosis 1 in Japan.	Eur J Dermatol. 2020.10; 30(5):618-620	Original Article
62	Kajita A, Sato E, Imafuku S.	皮膚科	Hypersensitivity due to unfractionated heparin treatment in a pregnant woman.	J Dermatol. 2020.11; 47(11): e419-e421, 2020 (オンライン)	Case report
63	Imafuku S, Nemoto O, Okubo Y, et al.	皮膚科	Pharmacodynamic analysis of apremilast in Japanese patients with moderate to severe psoriasis: Results from a phase 2b randomized trial.	J Dermatol. 2021.1 ; 48(1):80-84	Original Article
64	Imafuku S, Kanai Y, Murotani K, et al.	皮膚科	Utility of the Dermatology Life Quality Index at initiation or switching of biologics in real-life Japanese patients with plaque psoriasis: Results from the ProLOGUE study.	J Dermatol Sci. 2021.3 ; 101(3):185- 193	Original Article
65	Yotsumoto F他	産婦人科	Adipose tissue-derived regenerative cells improve implantation of fertilized eggs in thin endometrium	Regen Med · 23.7.2020 https://doi.org/ 10.2217/rme- 2020-0037	Original Article
66	Kiyoshima C他	産婦人科	MiR-4535 and MiR-1915- 5p in Amniotic Fluid as Predictive Biomarkers for Chorioamnionitis	Future Science OA · DOI 10.4155/fsoa- 2021-0006, Pubrished online15.2.2021	Original Article

67	川村朋子	眼科	Characteristic of slow growth in cell culture of adenovirus type 54 causing nationwide outbreak epidemic keratoconjunctivitis in Japans slow in cell culture	Jpn J Ophthalmol 64,312-320,2020.5	Original Article
68	高橋理恵	眼科	Finite element analysis of changes in tensile strain by airsoft gun impact on eye and deformation rate in eyes of various axial lengths	Clin Ophthalmol 14,1445-1450, 2020.5	Original Article
69	Miyazaki M, Aoki M, Okado Y, et. all	耳鼻咽喉科	Highly expressed tumoral emmprin and stromal CD73 predict a poor prognosis for external auditory canal carcinoma.	Cancer Science 111:3045-3056 2020.5	Original Article
70	Nishi K, Sakata T, Shirasawa S et all	耳鼻咽喉科	Mutant KRAS Promotes NKG2D+ T Cell Infiltration and CD155 Dependent Immune Evasion.	Anticancer Research 40(8): 4663-4674 2020.8	Original Article
71	Nishi K, Tsunoda T, Uchida Y, et all	耳鼻咽喉科	MK615 Suppresses Hypoxia Tolerance by Up-regulation of E-cadherin in Colorectal Cancer Cells With Mutant KRAS.	Anticancer Research 40: 4687-4694 2020.8	Original Article
72	Miyazaki M, Haraoka S, Sakata T, et all	耳鼻咽喉科	A Rare Case of Intractable Laryngeal Sarcoidosis: A Case Report	Internasional Journal of Practical Otolaryngolog y 3(1):e6-9 2020.4.28	Case report

小計6件

73	Honda G, Nagamachi S, Nonokuma M, Takano K, Kuwabara Y, Yoshimitsu K Iida H, Ogomori K, Kawasaki H, Tsuboi	放射線科	The development of new method to differentiate between Dementia with Lewy bodies and Alzheimer's disease by cerebral perfusion SPECT-comparison to CIScore	Jpn J Radiol 65 : 649-657 2020 07	Original Article
74	Sato K, Urakawa H, Sakamoto K, Ito E, Fujita K, Goto K, Honda G, Hamada Y, Yoshimitsu K	放射線科	Mucinous cystic neoplasm of the liver communicated with intrahepatic duct exhibiting peculiar chronological change in MR imaging appearances: a case report	Abdom Radiol 5(7): 2257- 2262 2020 07	Case report
75	Ito E, Sato K, Yamamoto R, Sakamoto K, Urakawa H, Yoshimitsu K	放射線科	Usefulness of iodine-blood material density images in estimating degree of liver fibrosis by calculating extracellular volume fraction obtained from routine dual-energy liver CT protocol equilibrium phase data: preliminary experience	Japanese Journal of Radiology 38(4): 365- 373 2020 04	Original Article
76	Takamatsu Y, Yoshida I, Yoshida M.	腫瘍・血液・感染症内科	An internet-based survey exploring the awareness of febrile neutropenia in patients with malignant lymphoma.	Supportive Care in Cancer 28 : 4509- 4516,2020.09	Original Article
77	Tanaka T, Tanaka M, Furusawa H, et al.	腫瘍・血液・感染症内科	Pilot Study of Irinotecan and S-1 (IRIS) for Advanced and Metastatic Breast Cancer.	Anticancer Research 40(8):4779- 4785,2020.08	Original Article

小計5件

78	Mogi A, Sasaki H, Nakashima Y, et al.	腫瘍・血液・感染症内科	Efficacy of oral levofloxacin monotherapy against low-risk FN in patients with malignant lymphoma who received chemotherapy using the CHOP regimen.	J Clin Exp Hemato 60(3):73- 77,2020.09	Original Article
79	Togawa A, Yoshimura M, Tokushige C, et al.	腫瘍・血液・感染症内科 感染制御部	Development of risk factor -based scoring system for detection of hypervirulent Klebsiella pneumoniae bloodstream infections.	Gut Pathogens 12:34- 40,2020.07.09 (オンライン ン)	Original Article
80	Horikawa T, Kawanami T, Hamaguchi Y. et al.	内分泌・糖尿病内科	Pemafibrate, a PPAR alpha agonist, attenuates neointima formation after vascular injury in mice fed normal chow and a high- fat diet.	Heliyon 2020.11; 6(11):e05431	Original Article
81	Takashi Y, Fukumoto S.	内分泌・糖尿病内科	Fibroblast growth factor receptor as a potential candidate for phosphate sensing.	Curr Opin Nephrol Hypertens 2020.7; 29(4):446-452	Review
82	Takashi Y, Fukumoto S.	内分泌・糖尿病内科	Phosphate-sensing and regulatory mechanism of FGF23 production.	J Endocrinol Invest 2020.7; 43(7):877-883	Review
83	Masutani K, Matsukuma Y, Tsuchimoto A et al.	腎臓・膠原病内科	Comparison of immunohistochemical staining for large T antigen and VP1 in BK polyomavirus-associated nephropathy	Nephron 144 (Suppl 1): 28- 36, 2021.1	Original Article
84	Ito K, Maeda T, Tada K et al.	腎臓・膠原病内科	The role of cigarette smoking on new-onset of chronic kidney disease in a Japanese population without prior chronic kidney disease: Iki epidemiological study of atherosclerosis and chronic kidney disease (ISSA-CKD)	Clinical and Experimental Nephrology 24 (10): 919- 926, 2020.10	Original Article

85	Shibata R, Ozaki T, Tada K et al.	腎臓・膠原病内科	Secondary renal amyloidosis associated with asbestos-related pleuropulmonary diseases	CEN Case Reports 9(4): 385-391, 2020.11	Case report
86	Yasui Y, Shibata R, Morita N et al.	腎臓・膠原病内科	Concurrent minimal change disease and retroperitoneal liposarcoma successfully treated by tumor resection and steroid therapy	CEN Case Reports 10(1): 30-34, 2021.2	Case report
87	Tsuboi Y, Hattori N, Yamamoto A, et al.	脳神経内科	Long-term safety and efficacy of safinamide as add-on therapy in levodopa-treated Japanese patients with Parkinson's disease with wearing-off: Results of an open-label study.	Journal of the Neurological Sciences. 2020.7; 416: 117012	Original Article
88	Kurihara K, Nakagawa R, Ishido M, et al.	脳神経内科	Impact of motor and nonmotor symptoms in Parkinson disease for the quality of life: The Japanese Quality-of-Life Survey of Parkinson Disease (JAQPAD) study.	Journal of the Neurological Sciences. 2020.10; 419: 117172	Original Article
89	Inoue K, Fujioka S, Nagaki K, et al.	脳神経内科	Table tennis for patients with Parkinson's disease: A single-center, prospective pilot study.	Clinical Parkinsonism & Related Disorders. 2020.12; 4: 100086.	Original Article
90	Takeshita S, Ogata T, Tsugawa J, et al.	脳神経内科	Isolated Cerebral Vasculitis in the Unilateral Middle Cerebral Artery in a Case with SLE.	Intern Med. 2020.12 ;59(24):3225-3227	Case report
91	Tsuboi Y, Mishima T, Fujioka S.	脳神経内科	Perry Disease: Concept of a New Disease and Clinical Diagnostic Criteria.	J Mov Disord. 2020.9; 14(1): 1-9.	Review

小計7件

92	Munehika T, Kajitani R, Matsumoto Y et al.	消化器外科	Safety and effectiveness of high ligation of the inferior mesenteric artery for cancer of the descending colon under indocyanine green fluorescence imaging: a pilot study	Surg Endosc. doi: 10.1007/s00464-020-07556-x. Epub 2020.4	Original Article
93	Hasegawa S, Kajitani R, Munehika T et al.	消化器外科	Avoiding urethral and rectal injury during transperineal abdominoperineal resection in male patients with anorectal cancer	Surg Endosc. 34(10):4679-4682, 2020.5	Original Article
94	Yoshida Y, Hashimoto Y, Miyazaki M et al.	消化器外科	5-Nitouracil stabilizes the plasma concentration values of 5-FU in colorectal cancer patients receiving capecitabine	Sci Rep. 10(1):2711, 2020.10	Original Article
95	Yamada T, Yoshida Y, Maeda T et al.	消化器外科	Changes in Immunological Status in Patients With Metastatic Colorectal Cancer Treated With First-line Chemoimmunotherapy	Anticancer Res. 40(8):4763-4771, 2020.11	Original Article
96	Matsumoto Y, Yoshida Y, Kiba S et al.	消化器外科	Acute chemotherapy-induced peripheral neuropathy due to oxaliplatin administration without cold stimulation	Support Care Cancer 28(11):5405-5410, 2020.11	Original Article
97	Hashimoto Y, Yoshida Y, Yamada T et al.	消化器外科	Current Status of Therapeutic Drug Monitoring of 5-Fluorouracil Prodrugs	Anticancer Res.40(8):4655-4661, 2020.8	Original Article
98	Matsuoka T, Yoshimatu G, Sakata N et al.	消化器外科	Inhibition of NLRP3 inflammasome by MCC950 improves the metabolic outcome of islet transplantation by suppressing IL-18 and islet cellular death	SCIENTIFIC REPORTS 10(1):17920, 2020.10	Original Article

小計7件

99	Yoshida Y, yamada T, Kamiyama H et al.	消化器外科	Combination of TAS-102 and bevacizumab as third- line treatment for metastatic colorectal cancer: TAS-CC3 study	International Journal of Clinical Oncology 26(1):111- 117,2021.1	Original Article
100	Kota Hoshino, Maiko Nakashio, Junichi Maruyama, Yuhei Irie, Yasumasa Kawano, Hiroyasu Ishikura	救命救急センター	Validating plasminogen activator inhibitor-1 as a poor prognostic factor in sepsis.	Acute Medicine & Surgery 2020;7:e581 ; doi: 10.1002/ams2. 581y (オンラ イン) 2020.9	Original Article
101	Yoshihiko Nakamura, Eng H. Lo, Kazuhide Hayakawa	救命救急センター	Placental Mitochondria Therapy for Cerebral Ischemia-Reperfusion Injury in Mice	Stroke 2020.10. 2020;51:00- 00. DOI: 10.1161/STRO KEAHA.120.0 30152 (オンライ ン)	Original Article
102	Yuhei Irie, Maho Tsubota, Mariko Maeda, Shiori Hiramoto, Fumiko Sekiguchi, Hiroyasu Ishikura, Hidenori Wake, Masahiro Nishibori, Atsufumi Kawabata	救命救急センター	HMGB1 and its membrane receptors as therapeutic targets in an intravesical substance P-induced bladder pain syndrome mouse model	Journal of Pharmacologi cal Science 2020, doi.org/10.101 6/j.jpsh.2020.0 3.002 (オンライ ン) 2020.6	Original Article

小計4件

103	Yu Saijto, Kent a Matsumura, Misao Kageyama, Yuichi Kato, Eiji Ohta et al.	小児科	Impact of prematurity and the CTG repeat length on outcomes in congenital myotonic dystrophy	BMC Res Notes 2020.13:350 7.2020 (オンライン)	Original Article
104	武岡宏明・鍋島茂樹	総合診療部	Useful clinical findings and simple laboratory data for the diagnosis of seasonal influenza	J General Family Med (2021, 22(5):231-236) 2021.2.28	Original Article
105	武岡宏明・鍋島茂樹	総合診療部	Human T-Cell Leukemia Virus Type 1 Infection Is a Risk Factor for Atherosclerosis	J Clin Med Res (2021, 13(3):164-169) 2021.3.19	Original Article
106	武岡宏明・鍋島茂樹	総合診療部	ANCA-related vasculitis with severe lung damage that progressed rapidly after onset	J Hospital General Med. (2021, 3(2):42-48) 2021.3	Case report
107	崎原永志・鍋島茂樹	総合診療部	A case of transient global amnesia with hippocampal infarction due to infective endocarditis	J Infect Chemother (2021, 27(6):902-905) 2021.1.20	Case report
108	Kinoshita Y, Hamasaki M, Matsumoto S, et. al.	病理部	Genomic-based ancillary assays offer improved diagnostic yield of effusion cytology with potential challenges in malignant pleural mesothelioma.	Pathol Int. 70(9) : 671-679, 2020 Sep	Original Article
109	Kobata K, Kimura S, Mihashi Y, et.al.	病理部	Clinical and cytopathological characteristics of HTLV-1(+) Hodgkin lymphoma.	Cancer Med., 9 : 5788-5797, 2020 Aug	Original Article
110	Akira Matsunaga, Mariko Nagashima, Hideko Yamagishi, et.al	臨床検査部・循環器内科 (兼務)	Variants of Lipid-Related Genes in Adult Japanese Patients with Severe Hypertriglyceridemia.	J Atheroscler Thromb 2020; 27: 1264-1277 2020.12	Original Article

111	Yuki Yasutaka, Shinsuke Fujioka, Takayasu Mishima, et al.	Departmenten of Pharmacy	Regular Use of Laxatives Influence Dose of Dopaminergic Medication in Patients with Parkinsonism	Japanese Pharmacology & Therapeutics,, 48, 785-790 (2020) . 2020年5月	Original Article
112	Akane Nagasato, Tomomi Kuramitsu, Masatoshi Nakamura, et al.	Departmenten of Pharmacy	Efficacy and Safety of Caffeine for Preterm Infants with Apnea at Less than 28 Weeks of Gestational Age	Japanese Jaournal of Pharmaceutical Health Care and Sciences, 46, 452-459 (2020) . 2020年8月	Original Article
113	Yuki Yasutaka, Shinsuke Fujioka, Takayasu Mishima, et al.	Departmenten of Pharmacy	How to introduce a rotigotine patch to Parkinson's disease patients taking oral dopamine agonists	Clinical Neurology and Neurosurgery 199, 106266, 2020. (オンライン) 2020年10月	Original Article
114	Togawa A, Yoshimura M, Tokushige C, et al.	感染制御部	Development of risk factor-based scoring system for detection of hypervirulent Klebsiella pneumoniae bloodstream infections	Gut Pathog 7月9日;12:34, 2020.	Original Article
115	Mogi A, Sasaki H, Nakashima Y,	腫瘍・血液・感染症内科	Efficacy of oral levofloxacin monotherapy against low-risk FN in patients with malignant lymphoma who received chemotherapy using the CHOP regimen	J Clin Exp Hematop 9月25日 60(3):73-77, . 2020.	Original Article
116	Umemoto G, Fujioka S, Arahata H, Kawazoe M, Sakae N, Sasagasako N, Furuya H, Tsuboi Y.	歯科口腔外科	Relationship between tongue pressure and functional oral intake scale diet type in patients with neurological and neuromuscular disorders.	Clin Neurol Neurosurg. 2020-11	Original Article
117	Ishida S, Kondo S, Funakoshi S, et al.	歯科口腔外科	White blood cell count and incidence of hypertension in the general Japanese population: ISSA-CKD study.	PLoS One 2021-02	Original Article

- 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合には、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること（筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。）
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月（原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない）；巻数: 該当ページ」の形式で記載すること（出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月（オンライン掲載月）の後に（オンライン）と明記すること）。
記載例： Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文（任意）

番号	発表者氏名	事業者の 特定機能病院における所 属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	小吉里枝、 坪井義夫、 鷺山厚司、 他	医療安全管理部	福岡大学病院の入院患者に おける転倒の現状と組み みについて	医療と安全 12:35-40, 2020.9	Original Article
2	小吉里枝、 三浦伸一郎	医療安全管理部	冠動脈疾患を有する患者に おける加齢と内皮機能の関 連性	臨牀と研究 98(1):105-108, 2021.1	Original Article
3	Komaki T, Ogawa M, Idemoto Y, et al.	循環器内科	Gap-related Pulmonary Vein and Left Atrial Flutter Mimicking Cavotricuspid Isthmus- dependent Atrial Flutter	Internal Medicine 59(11):1413- 1416, 2020 Jun	Case report
4	Onishi N, Komaki T, Nakamura M, et al.	循環器内科	A Rare Case of Submassive Pulmonary Embolism with a Right Aberrant Subclavian Artery and Thrombosed Kommerell Diverticulum	Internal Medicine 59(15):1861- 1865, 2020 Aug	Case report
5	Shiga Y, Idemoto Y, Tashiro K, et al.	循環器内科	Regression and Stabilization of Coronary Vulnerable Plaque by Evolocumab as Assessed by Multidetector Row Computed Tomography	Internal Medicine 59(19):2391- 2395, 2020 Oct	Case report
6	Sugihara M, Miura S.	循環器内科	Endoscopic Findings of an Excessively Compressed Interwoven Nitinol Supera Stent	Circulation Journal 84(5):830, 2020 May	Case report
7	Sugihara M, Ueda Y, Yano Y, et al.	循環器内科	Successful case of direct puncture of a prosthetic bypass graft in endovascular treatment for long superficial artery chronic total occlusion: a case report	Eur Heart J Case Rep 4(6):1-5, 2020 Nov	Case report

小計7件

8	副島麻子、 志賀悠平、 丸尾宇史、 他	循環器内科	院内診療ガイドラインに基づいた静脈血栓塞栓症治療	臨牀と研究 97(4):85-90, 2020.4	Case report
9	Miura S, Katsuda Y, Sugihara M, et al.	循環器内科	A Strict Target for Low-Density Lipoprotein Cholesterol May not Be Necessary for Secondary Prevention of Cardiovascular Disease in ALL Elderly Patients With Dyslipidemia	Cardiol Res 11(6):366-369, 2020 Dec	Review
10	志賀悠平、 三浦伸一郎	循環器内科	配合剤を用いた降圧療法の積極的推進	日本臨牀増刊号 高血圧学 下 78(2) : 434- 439, 2020.7	Review
11	三浦伸一郎	循環器内科	運動指導のポイント	高血圧と循環器病の予防と管理 188-198, 2020.9	Review
12	桑野孝志	循環器内科	アンジオテンシン受容体拮抗薬ネプリライシン阻害薬の大動脈瘤抑制効果と作用機序	福岡大学研究部論集 F:推奨研究編 8:109-112, 2020.12	Review
13	岡村圭祐、 高士祐一、 松島昌敏、 他	医学部 客員准教授	循環器科医の為の超選択的副腎静脈サンプリングマニュアル	臨牀と研究 97(5):76-88, 2020.5	Review
14	森戸夏美、 三浦伸一郎	循環器内科	診療科別超音波検査の要点と盲点 循環器	臨牀と研究 98(3):58-65, 2021.3	Review
15	藤田昌樹	呼吸器内科	発熱と感染症 呼吸器感染症	臨牀と研究・2020年10月 97 (10) :1202- 1206	Review
16	吉村 力、 有馬久富	呼吸器内科	日本における高血圧疫学データから見る高血圧制圧の課題と展望	日本臨牀 高血圧学 上・2020年6月 78 (増刊号) 416-418	Review
17	吉村 力、 有馬久富	呼吸器内科	メタアナリシスは万能か	老年内科・2020年7月 2 (1) : 84-88	Review

小計10件

18	Kawashima Y, Kwanishi C, Otsuka K, Mimura M, Otaka Y, Okamura K, Kinoshita T, Shirakawa O, Yoshimura R, Eto N, et al.	福岡大学医学部精神医学教室	Two - day assertive - case - management educational program for medical personnel to prevent suicide attempts: A multicenter pre-post observational study.	Psychiatry and Clinical Neurosciences 74:362-370,2020	Original Article
19	Yanagi M, Hosomi F, Kawakubo Y, Tsuchiya A, Ozaki S, Shirakawa O.	福岡大学医学部精神医学教室	A decrease in spontaneous activity in medial prefrontal cortex is associated with sustained hallucinations in chronic schizophrenia: An NIRS study.	Sci Rep. 2020 Jun 12;10(1):9569.	Original Article
20	Honda G, Nagamachi S, Nonokuma M, Takano K, Kuwabara Y, Yoshimitsu K, Iida H, Ogomori K, Kawasaki H, Tsuboi Y	福岡大学病院精神神経科 福岡大学医学部精神医学教室	The development of new method to differentiate between Dementia with Lewy bodies and Alzheimer's disease by cerebral perfusion SPECT-comparison to CIScore.	Jpn J Radiol Feb;39(2):198-205, 2021	Original Article
21	Iida H, Iga J, Hasegawa N, et al.	福岡大学病院精神神経科	Unmet needs of patients with major depressive disorder - Findings from the 'Effectiveness of Guidelines for Dissemination and Education in Psychiatric Treatment (EGUIDE)' project: A nationwide dissemination, education, and evaluation study.	Psychiatry Clin Neurosci. Dec;74(12):667-669. 2020	Original Article
22	衛藤 暢明	福岡大学医学部精神医学教室	自殺の危険の高い患者との経験とあやまちから学ぶ。	九州神経精神医学 65(3-4),143-147, 2020	Case report

23	衛藤 暢明, 川崎弘詔	福岡大学医学部精神医学教室	外来で行う自殺関連行動への対応と自殺予防外来の試み.	外来精神医療 20(1), 37-40, 2020	Review
24	衛藤 暢明	福岡大学医学部精神医学教室	若年者の自殺予防-自殺の危険から見た自殺予防の基礎.	日本精神神経科診療所協会 ジャーナル 45(5), 12-36, 2020	Review
25	北井 良和, 衛藤 暢明, 川崎弘詔	福岡大学病院精神神経科 福岡大学医学部精神医学教室	幻覚・妄想.	臨床と研究 97(9),1066- 1072, 2020	Review
26	石井敦士	小児科	遺伝性疾患(遺伝病)を学ぶ 「てんかん」	遺伝子医学. 2020年7月; Vol.10(復刊8号):33	Review
27	野原有起, 小野周子, 田中益美他	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	乳癌周術期化学療法におけるAC療法とTC療法の発熱性好中球減少症発症頻度の比較.	癌と化学療法 47(11): 1589- 1591, 2020	Original Article
28	Iwanaka T, Yamaza T, Sonoda S et all	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	A model study for the manufacture and validation of clinical-grade deciduous dental pulp stem cells for chronic liver fibrosis treatment.	Stem Cell Res. Ther 11(1): 134, 2020	Original Article
29	吉田美由紀, 宮原聡, 山本玲央那他	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	左上葉管状切除を要した気管支内腔進展を伴う術後再発胸腺腫の一例.	日本呼吸器外科学会誌 34(6): 578- 581, 2020	Case report
30	前山彰, 木山貴彦, 小林知弘, 他	整形外科	Opening wedge高位脛骨骨切り術の正確な術後アライメントを得るための手技の検討	JOSKAS 45巻 3号 Page712- 716(2020.06)	Original Article
31	前山彰, 木山貴彦, 小林知弘, 他	整形外科	Suspensory Button Fixation Systemを用いた骨端線閉鎖前の近位脛腓関節不安定症の治療経験	JOSKAS 45巻 3号 Page791- 794(2020.06)	Original Article
32	關千尋, 中村哲郎, 白崎圭伍, 他	整形外科	院内死亡および転科症例の検討	整形外科と災害外科 70(1)149- 151,2021	Original Article

小計10件

33	杉野 裕記, 古子 剛, 宮 里 和明, 他	整形外科	術前に両肺動脈塞栓症を 発症した上腕骨近位端骨折の 1例	整形外科と災 害外科 69(1) : 63-65,2020	Case report
34	杉野 裕記, 古子 剛, 宮 里 和明, 他	整形外科	術前に両肺動脈塞栓症を 発症した上腕骨近位端骨折の 2例	整形外科と災 害外科 69(1) : 63-65,2021	Case report
35	杉野 裕記, 古子 剛, 宮 里 和明, 他	整形外科	術前に両肺動脈塞栓症を 発症した上腕骨近位端骨折の 3例	整形外科と災 害外科 69(1) : 63-65,2022	Case report
36	杉野 裕記, 古子 剛, 宮 里 和明, 他	整形外科	術前に両肺動脈塞栓症を 発症した上腕骨近位端骨折の 4例	整形外科と災 害外科 69(1) : 63-65,2023	Case report
37	赤須 優希 大 茂 壽久, 宮 良 俊, 他	整形外科	有頭骨単独骨折遷延癒合の 1例	整形外科と災 害外科 70(1)115- 118,2021	Case report
38	倉光 正憲, 下河邊 久雄, 古子 剛, 他	整形外科	肘頭剥離骨片を伴った上腕 三頭筋皮下断裂に対して Suture Bridge法で解剖学 的修復を行った1例	整形外科と災 害外科 70(1)101- 104,2021	Case report
39	山本卓明	整形外科	編集企画にあたって	Monthly book orthopaedics 1:33(8),2020	Letter
40	山本卓明	整形外科	現代社会と頸・肩・腰痛	臨牀と研究 97 (7) : 787- 789,2020	Review
41	山本卓明	整形外科	新しい疾患概念'軟骨下脆弱 性骨折'から見えてきたこと	臨床整形外科 55 (1) : 2, 2020	Letter
42	吉村 一朗	整形外科	治療法の再整理とアップ デートのために 専門家に よる私の治療 距骨骨軟骨 損傷	日本医事新報 2020;5025;44- 45	Review
43	山本卓明	整形外科	治療法の再整理とアップ デートのために 専門家に よる私の治療 特発性大腿 骨頭壊死症	日本医事新報 2020;5025;45- 46	Review
44	前山 彰	整形外科	【誤診と見逃しを防ぐ】誤 診しやすい膝関節疾患・外 傷	関節外科 39巻 10月増刊 Page92- 101(2020.10)	Review

小計12件

45	伊崎輝昌	整形外科	スポーツ障害・スポーツ外傷の予防と治療	さかえ: 月刊糖尿病ライフ 60(7):28-32, 2020	Review
46	山本卓明	整形外科	THAの前方進入、後方進入の違いを教えてください	整形外科看護 2021,26(3)262-269	Review
47	伊崎輝昌, 中山鎮秀, 三宅智, 他	整形外科	【新しい概念 "軟骨下脆弱性骨折"からみえてきたこと】肩関節における軟骨下脆弱性骨折	臨床整形外科 55(1):17-20, 2020	Review
48	鎌田聡, 山本卓明	リハビリテーション部	【疼痛治療のレシピ】各種疼痛に対するさまざまな治療法 リハビリテーションにおける疼痛への対応	臨床と研究 97(2):190-194, 2020	Review
49	木下浩一, 山本卓明	整形外科	Curved Periacetabular Osteotomyの特徴とそのメリット	臨床整形外科 55(6), 693-697, 2020	Review
50	山本卓明	整形外科	緒言「各種骨盤骨切り術とそのメリット」	臨床整形外科 55(6)682,2020	Others
51	藤田隆寛, 石川博之, 高田俊輔, 他	福岡歯科大学	福岡歯科大学医科歯科総合病院矯正歯科における先天性疾患患者の実態調査	日本口蓋裂学会雑誌・ 45(1):1-11,2020	Original Article
52	森永絵理, 岡本理沙, 森田愛, 他	福岡大学病院形成外科	転写加工シールを用いた乳房再建における乳頭乳輪シールの応用	Oncoplastic Breast Surgery・ 5(3):50-55,2020	Original Article
53	鈴木翔太郎, 高木誠司, 藤田貴子, 他	福岡大学病院形成外科	学童期まで診断が遅れた頭蓋縫合早期癒合症に対してMCDO法を適用した1例	日本頭蓋顎顔面外科学会誌・ 36(4):194-201,2020	Case report
54	山田由李子, 福田宏幸, 齊田和哉他	脳神経外科	HAL®切腰タイプによる看護現場における労務軽減効果	臨床と研究 97(12):132-136, 2020	Original Article
55	福田宏幸, 百武光一, 齊田和哉他	リハビリテーション部	ロボットスーツHAL®切を使用した下肢・歩行訓練の実際	臨床と研究 97(12):99-103, 2020	Original Article

小計11件

56	Horio Y, Fukuda K, Miki K et al	脳神経外科	Dynamic assessment of internal carotid artery and elongated styloid process in a case of bilateral carotid artery dissection	Surg Neurol Int 11(163):1-4, 2020	Case report
57	Enomoto T, Aoki M, Miyagawa K et al	脳神経外科	A Case of Salivary Duct Carcinoma Intracranial Invasion due to Perineural Invasion Through the Facial Nerve	World Neurosurgery 140:332-337,2020	Case report
58	清水真行、 清水 篤、 西川幸作、 他	心臓血管外科	冠動静脈瘻を伴う巨大右冠動脈瘤に対して自己心膜パッチ閉鎖術を施行した1例	日本心臓血管外科学会雑誌 49(3) 114-118 2020	症例報告
59	早麻 政斗、 尼子 真生、 松村 仁、 他	心臓血管外科	EVAR術後のType V endoleakによる瘤径拡大に対して胸腹部大動脈瘤手術に準じたアプローチでopen conversionを行った1例	日本血管外科学会雑誌29(4) 265-269 2020	症例報告
60	和田秀一	心臓血管外科	末梢動脈疾患	臨床と研究 98(7)825-830 2020	総説
61	今福信一、 是松健太、 森 直子、 その他	皮膚科	帯状疱疹患者におけるアメナメビル(アメナリーフ錠 200mg)の安全性と有効性の検討 特定使用成績調査の中間成績	日本臨床皮膚科医会雑誌 2020 Nov; 37(5): 641-649	Original Article
62	麻生麻里子、伊藤宏太郎、大賀保範、その他	皮膚科	エフェドリン類による Nonpigmenting Fixed Drug Eruptionの2例	西日本皮膚科. 2020 Apr; 82(2): 81-84	Case report
63	鈴木祥子、立川量子、今村和子、その他	皮膚科	梅毒性肝炎を伴った早期梅毒の1例	西日本皮膚科. 2020 Jun; 82(3): 188-191	Case report
64	麻生麻里子、古賀文二、宮崎三枝子、その他	皮膚科	診断に至るまで8年の期間を要した不全型Behçet病の1例	西日本皮膚科. 2020 Oct; 82(5): 348-351	Case report

小計9件

65	川崎彩加、 佐藤絵美、 吉村郁弘、 その他	皮膚科	刺青サルコイドーシスの1 例	西日本皮膚科. 2020 Dec; 82(6): 422-425	Case report
66	Akifumi Onagi, Nobuhiro Haga, Ryo Tanji, et al.	腎泌尿器外科	Transient renal dysfunction due to rhabdomyolysis after robot-assisted radical prostatectomy	International Urology and Nephrology. 52(10):1877- 1884, 2020	Original Article
67	Nobuhiro Haga, Kazuna Tsubouchi, Hiroko Maruta, at al.	腎泌尿器外科	Increase in circulating tumor cells in invasive bladder cancer after transurethral resection of bladder tumor	Anticancer research. 40(8):4299- 4307, 2020	Original Article
68	Jyunya Hata, Ryo Tanji, Akifumi Onagi, Ruriko Honda- Takinami, Kanao Matsuoka, Seiji Hoshi, Yuichi Sato, Hidenori Akaihata, Nobuhiro Haga, Yoshiyuki Kojima	腎泌尿器外科	Morphological change and characteristics of myofibroblasts during the growth process of benign prostatic hyperplasia	Int J Urol. 27(8):676-683, 2020	Original Article
69	Kurimura Y, Haga N, Yanagida T, at al.	腎泌尿器外科	The preoperative pad test as a predictor of urinary incontinence and quality of life after robot-assisted radical prostatectomy: a prospective, observational, clinical study.	Int Urol Nephrol. 52(1):67-76, 2020	Original Article

小計5件

70	Nobuhiro Haga, Yu Okabe, Takeshi Miyazaki, at al.	腎泌尿器外科	The effect of β 3-adrenoceptor gene polymorphisms on lower urinary tract function in males.	World Journal of Urology. 39:3035-3040, 2021	Original Article
71	Meguro S, Haga N, Imai H, at al.	腎泌尿器外科	Association Between Surgical Stress and Biochemical Recurrence After Robotic Radical Prostatectomy.	JSLs. 25(1):e2020.00078	Original Article
72	宮原大輔、宮本新吾	産婦人科	特集 一から学びなおす 婦人科がん化学療法有害事象の管理 7. 肝障害	産科と婦人科・87(2):153-159, 2020	Review
73	四元房典、古賀文敏、宮本新吾	産婦人科	脂肪組織由来幹細胞を活用した再生医療による着床改善	産科と婦人科・87(11):1285-1290, 2020	Review
74	倉員正光、宮本新吾	産婦人科	当センターにおける卵子提供妊娠の患者背景、産科合併症と周産期転帰	産婦人科の実際・69:175-181, 2020	Review
75	漆山大知、秦健一郎、宮本新吾	産婦人科	特集 周産期医療と細菌叢 妊婦編 「早産と羊水細菌叢」	周産期医学・50:319-325, 2020	Review
76	漆山大知、秦健一郎、宮本新吾	産婦人科	絨毛膜羊膜炎関連微生物の同定ならびに検出方法の開発	化学工業・71:465-471, 2020	Review
77	横田梨沙、長町茂樹、野々熊真也、高野浩一、桑原康雄、吉満研吾、尾籠晃司、坪井義夫	放射線科	アルツハイマー型認知症の経過観察における脳血流SPECTを用いた疾患特異領域評価の有用性の検討	臨床放射線 65: 649-657 2020 07	Original Article

小計8件

78	西川麻美、 富永香織、 上野登喜 生、安川史 織、廣重可 奈、毛利圭 那子、小沢 芳博、上村 忠久、藤光 律子、吉満 研吾	放射線部	Digital breast tomosynthesisにおける画 像再構成法の違いが画質へ 与える影響	日本放射線技 術学会雑誌 77(1): 14-22 2021 01	Original Article
79	日隈由紀 枝、長町茂 樹、野々熊 真也、吉満 研吾、岩崎 昭憲	放射線科	FDG—PET/CTにより算 出したtotal tumor burden を用いた進行期非小細胞肺 癌の治療効果判定と長期予 後層別化	臨床放射線 66(3): 259- 267 2021 03	Original Article
80	吉満研吾、 浦川博史、 坂本桂子、 伊東絵美	放射線科	肝細胞腺腫の画像診断	肝胆膵 80(4): 701- 707 2020 04	Review
81	佐藤圭亮、 吉満研吾	放射線科	術前リンパ節転移の画像の 読み方とその診断精度	胆と膵 41(9): 829-834 2020 09	Review
82	後藤和貴、 長町茂樹、 志賀悠平、 谷 知允、 野々熊真 也、吉満研 吾	放射線科	冠動脈血行再建術後に心筋 血流SPECTで興味深い位相 指標変動を示した2例	臨床核医学 54(1): 2-5 2021 01	Case report
83	知念祥太 郎、丸山 大	腫瘍・血液・感染症内科	孤発性形質細胞腫	血液内科 80(5):698- 704,2020.05	Review
84	高松 泰	腫瘍・血液・感染症内科	慢性リンパ性白血病の診断 と治療	Medical Practice 37(9):1391- 1394,2020.09. 01	Review
85	佐々木秀 法、高松 泰	腫瘍・血液・感染症内科	好中球減少の鑑別診断	内科 126(4):735- 738,2020.10	Review

小計8件

86	茂木 愛、高松 泰	腫瘍・血液・感染症内科	血液疾患	臨床と研究 97(10):48-52,2020.10.20	Review
87	知念祥太郎、高松 泰	腫瘍・血液・感染症内科	MGUSの病態と診療方針	血液内科 82(2):152-156,2021.02	Review
88	山口裕美子、合馬慎二、野々熊真也 他	脳神経内科	レビー小体型認知症診断におけるAla ScoreとCIScoreの年齢別感度、特異度の検討	臨床神経学. 2020年5月; 60: 407-413	Original Article
89	横手 顕, 合馬 慎二, 高橋 和範 他	脳神経内科	軽度のコミュニケーション障害で発症し長期経過を呈した神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症の1例	臨床神経学. 2020年5月; 60 : 420-424	Case report
90	佐藤 聖子	麻酔科	脊髄空洞症を伴うアーノルドキアリ奇形術後の無痛分娩麻酔経験	麻酔. 2020	Original Article
91	Hyakutake K, Morishita T, Saita K et al.	リハビリテーション部・脳外科	Feasibility of single and combined with other treatments using transcranial direct current stimulation for chronic stroke: a pilot study	SAGE Open Med. 2020 Jul 7:8:2050312120940546	Original Article
92	Kotani N, Morishita T, Saita K et al.	リハビリテーション部・脳外科	Feasibility of supplemental robot-assisted knee flexion exercise following total knee arthroplasty	Journal of back and musculoskeletal rehabilitation 2020 ;33	Original Article
93	Kotani N, Morishita T, Yatugi A et al.	リハビリテーション部・脳外科	Biofeedback core exercise using hybrid assistive limb for physical frailty patients with or without Parkinson's disease	Frontiers in neurology 2020:11	Original Article

小計8件

94	Kamada S, Kise N, Kinoshita K et al.	リハビリテーション部・ 整形外科	Femoral neck fracture in a hemodialysis patient after liver transplantation:A case report	Progress in rehabilitation medicine 2021:6:202100 03	Case report
95	太原 鉄 平、 太田 栄 治、 熊谷 拓哉 他	小児科、 総合周産期母子医療セン ター	急性前骨髄球性白血病を発 症したBeckwith- Wiedemann症候群の1歳女 児例	日本産婦人 科・新生児血 液学会 2020年12月 30：3-4	Original Article
96	奥津翔太・ 加藤禎史・ 鍋島茂樹	福岡大学病院	Citrobacter koseriによる壊 死性軟部組織感染症を呈し 外科的処置を要したアルカ プトン尿症の1例	感染症学雑誌 (2020, 94(6):834-838)	Case report
97	鍋島茂樹・ 増井信太・ 坂本篤彦	福岡大学病院	新型コロナ感染症 (COVID-19)の高熱に麻 黄湯が有効であった一例	日本東洋医学 雑誌 (2021, 72(2):204- 207)	Case report
98	松永 彰	臨床検査部・循環器内科 (兼務)	高トリグリセライド血症を きたす病態	臨床検査 2020: 97: 279- 288	Review
99	敷島友喜、 釜田充浩、 長郷あかね 他	薬剤部	GLP-1受容体作動薬が有効 であった緩徐進行1型糖尿 病の1例	日本くすりと 糖尿病学会雑 誌 9, 182-186 (2020) . 2020年6月	Case report
100	釜田充浩、 村木優一、 緒方禮紗他	薬剤部	大学病院における外来経口 抗菌薬使用の評価法の探索	日本化学療法 学会雑誌 68, 532-538 (2020) . 2020年7月	Original Article
101	佐々木史 香、安高勇 気、大木伸 泰他	薬剤部	転倒転落予防のための睡眠 薬選択～不眠時指示にスポ レキサントを推奨した成果 ～	日本病院薬剤 師会雑誌, 56, 1151- 1154(2020). 2020年10月	Original Article
102	安高勇氣、 緒方憲太 郎、神村英 利	薬剤部	薬学部5年生における実践 型病棟実習の教育効果	九州薬学会雑 誌, 74, 13- 17(2020).2020 年11月	Original Article

小計9件

103	池内忠宏、 兼重晋、緒 方憲太郎他	薬剤部	地域保険薬局を対象とした 病診薬連携研修会における スモールグループディス カッションの活用	Hospice and Home Care 28, 178-184 (2020) . 2020年12月	Original Article
104	緒方憲太 郎、安高勇 気、知念祥 太郎他	薬剤部	がん化学療法を受ける患者 に対する薬学実習生の着眼 点の把握—テキストマイニ ング法を用いた解析—	薬学教育, 5, 1-7 (2021) . 2021年3月	Original Article
105	佐々木史 香、安高勇 気、大木伸 泰他	薬剤部	酸化マグネシウムと炭酸リ チウムの併用が血清マグネ シウム濃度に及ぼす影響	日本精神薬学 会誌, 4 (2), 60- 65 (2021) . 2021年3月	Original Article

合計105件

- 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有 無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有 無
・ 手順書の主な内容 ・ 福岡大学医に関する倫理委員会標準業務手順書 ・ 医に関する倫理委員会審査事項、迅速審査事項及び報告事項	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有 無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有 無
・ 規定の主な内容 ・ 福岡大学利益相反に関する規程 ・ 福岡大学臨床研究に係る利益相反ポリシー ・ 福岡大学臨床研究に係る利益相反マネジメント委員会に関する内規	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年12回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年40回 (DVD研修)
・ 研修の主な内容 ・ 人を対象とする医学系倫理指針について ・ 利益相反 (COI) について	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

内科専攻医研修プログラムに基づく研修
消化器内科後期臨床研修プログラムに基づく研修
呼吸器内科後期臨床研修プログラムに基づく研修
精神科専門医研修プログラム
小児科後期臨床研修プログラムに基づく研修
呼吸器・乳腺内分泌・小児外科後期臨床研修プログラムに基づく研修
整形外科後期臨床研修プログラムに基づく研修
形成外科後期臨床研修プログラムに基づく研修
脳神経外科後期臨床研修プログラムに基づく研修
心臓血管外科後期臨床研修プログラムに基づく研修
皮膚科後期臨床研修プログラムに基づく研修
泌尿器科専門研修施設群専門研修プログラム」に基づく研修
産婦人科後期臨床研修プログラムに基づく研修
眼科後期臨床研修プログラムに基づく研修
耳鼻咽喉科専門研修プログラムに基づく研修
放射線科後期臨床プログラムに基づく研修
歯科口腔外科後期臨床研修プログラムに基づく研修
麻酔科後期臨床プログラムに基づく研修
救命救急センター後期臨床プログラムに基づく研修

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	120.33人
-------------	---------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
三浦 伸一郎	循環器内科	主任教授	27年	
平井 郁仁	消化器内科 内視鏡部	主任教授	30年	消化管領域
釈迦堂 敏	消化器内科	准教授	36年	肝胆膵領域
藤田 昌樹	呼吸器内科	主任教授	34年	
川崎 弘詔	精神神経科	主任教授	36年	
廣瀬 伸一	小児科	主任教授	41年	
岩崎 昭憲	呼吸器乳腺内分 泌小児外科	主任教授	36年	
山本 卓明	整形外科	主任教授	31年	
高木 誠司	形成外科	准教授	26年	
井上 亨	脳神経外科	主任教授	41年	
和田 秀一	心臓血管外科	主任教授	30年	
今福 信一	皮膚科	主任教授	29年	
羽賀 宣博	腎泌尿器外科	主任教授	24年	
宮本 新吾	産婦人科	主任教授	38年	
内尾 英一	眼科	主任教授	26年	

坂田 俊文	耳鼻咽喉科	主任教授	35年
吉満 研吾	放射線科	主任教授	34年
石倉 宏恭	救命救急センター	主任教授	35年
秋吉 浩三郎	麻酔科	主任教授	25年
近藤 誠二	歯科口腔外科	主任教授	29年

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

- ・研修の主な内容
患者急変時の対応(救急蘇生法・AED演習)、安全な輸血療法の実施(演習)、インスリンの取り扱い、安全な静脈注射、輸液ポンプ・シリンジポンプ取り扱い、医療安全の基本。
- ・研修の期間・実施回数
各研修 1時間から2時間、2回/年 実施
- ・研修の参加人数
69名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

- ・研修の主な内容
新採用者に対する研修
(多職種合同オリエンテーション、接遇マナー研修)
- ・研修の期間・実施回数
4月上旬～中旬のうち2日間、計4回
- ・研修の参加人数
令和2年度150名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・研修の主な内容
メディカルセミナー
- ・研修の期間・実施回数
令和2年度 2回開催予定の内、新型コロナウイルス感染症拡大の終息が予測できないことから、1講演は会場開催から急遽WEB開催へ変更したが、残り1講演は参加申込人数が少なく、診療科と協議の結果次年度に延期とした。
- ・研修の参加人数
1回 医師以外合計 7名 医師合計 26名
- ・研修の主な内容
糸島医師会・福大病院 地域連携学術講演会
- ・研修の期間・実施回数
令和2年度 2回開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の終息が予測できないことから、糸島医師会及び診療科との協議の結果、WEB開催は見送りとし開催予定の2講演は次年度へ延期とした。
- ・研修の主な内容
日本COVID-19対策ECMOnet 人工呼吸/ECMO講習会
新型コロナウイルス感染症の重症例に対する人工呼吸管理およびECMO管理について、有効かつ安全に実施可能な人材を育成する研修
- ・研修の期間
令和2年7月4日(土) 9:00～17:30

- ・研修の参加人数 医師35名、医師以外70名
- ・研修の主な内容 日本COVID-19対策ECMOnet・日本呼吸療法医学会・厚生労働省第2回人工呼吸／ECMO講習会
新型コロナウイルス感染症の重症例に対する人工呼吸管理およびECMO管理について、有効かつ安全に実施可能な人材を育成する研修
- ・研修の期間 令和2年12月13日（土）9：00～17：30
- ・研修の参加人数 医師20名、医師以外50名

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	② 現状
管理責任者氏名	病院長 岩崎 昭憲	
管理担当者氏名	庶務課長 赤木 須美男 医療情報部事務室長 服部 和文 薬剤部長 神村 英利	医事課長 江淵 猛雄 放射線部技師長 上村 忠久

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	庶務課
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	薬剤部
		手術記録	手術部
		看護記録	看護部
		検査所見記録	臨床検査部
		エックス線写真	放射線部
		紹介状	医事課
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医療情報部
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	庶務課
		高度の医療の提供の実績	庶務課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	庶務課
		高度の医療の研修の実績	庶務課
		閲覧実績	庶務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	地域医療連携センター
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課
		<p>先進医療実績報告(帳簿管理)</p> <p>紙媒体で台帳保管、またデータ保管で管理。</p>	

<p>規則第一 条の十一 第一項に 掲げ</p>	<p>医療に係る安全管理のための指 針の整備状況</p>	<p>医療安全管理部</p>	<p>医療安全管理部にて一 括管理 以下項目、上記に同じ</p>
	<p>医療に係る安全管理のための委 員会の開催状況</p>	<p>医療安全管理部</p>	
	<p>医療に係る安全管理のための職 員研修の実施状況</p>	<p>医療安全管理部</p>	
	<p>医療機関内における事故報告等 の医療に係る安全の確保を目的 とした改善のための方策の状況</p>	<p>医療安全管理部</p>	

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部	感染制御部にて一括管理
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部	以下項目、上記に同じ
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部 医療安全管理部 庶務課	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	薬剤部にて一括管理
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	以下項目、上記に同じ
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学センター	臨床工学センターにて一括管理
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学センター	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学センター	以下項目、上記に同じ
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学センター	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療安全管理部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療安全管理部
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理部
		職員研修の実施状況	医療安全管理部
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部
管理者が有する権限に関する状況	医療安全管理部		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	医療安全管理部		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	医療安全管理部		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 <input type="radio"/> 2. 現状 <input checked="" type="radio"/>
閲覧責任者氏名	事務長 岳 弘司
閲覧担当者氏名	庶務課長 赤木 須美男 医事課長 江淵 猛雄 医療情報部事務室長 服部 和文
閲覧の求めに応じる場所	病院西別館 3 階 B 会議室
閲覧の手続の概要	
閲覧を希望の際には、庶務課へ申請を行い、閲覧室である病院西別館 3 階 B 会議室にて閲覧を行う。	

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0 件
閲覧者別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： 1. 安全管理に関する基本的考え方 2. 安全管理のための委員会および院内の組織に関する基本事項 3. 安全管理のための職員研修に関する基本方針 4. 安全確保を目的とした改善策を講ずるための基本方針 5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 6. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 7. 患者からの相談への対応に関する基本方針 8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無 (有・無) ・ 開催状況：年 12回 ・ 活動の主な内容：医療安全管理委員会 (1回/月) 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 18 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容 (すべて)： 1. 医療安全院内教育 9 回 2. 医療安全実践セミナー 5 回 3. 医療安全の基本 4 回 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1. 医療事故・合併症・重要インシデント事例の検討・医療安全教育の企画。 2. 医療安全管理者が抽出したインシデント事例を医療安全管理部小委員会で検討し、改善を要するものはセーフティマネージャー会を通じて伝達している。また、全職員に電子カルテ掲示板で会議資料を公開し、安全管理・危機管理意識の向上に努めている。 3. 医療安全管理責任者および医療安全管理者は、事故・インシデント・合併症発生時など、必要に応じて当事者、当該部署と個別に対応し指導する。特に重要事例に関しては、検討会を開いて、迅速な対応を心掛けている。 4. 病院全体の問題として取り上げる必要がある事例は、医療安全管理委員会に提言し、安全管理の改善に役立てる。 5. 「安全管理レポート」(毎月)と「医療安全情報」(適時)を発行し、全職員へフィードバックおよび周知徹底を図っている。 6. 医療安全管理院内ラウンドを月1回実施し、現状把握および周知徹底を図っている。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	○・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染対策に関する基本的考え方 2. 院内感染対策のための委員会および院内の組織に関する基本事項 3. 感染対策に関する教育・研修に関する基本方針 4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5. 院内感染発生時の対応 6. 感染対策の閲覧に関する基本方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染対策委員会（1回／月） ・ 感染制御部会議（1回／月） ・ セーフティーマネジャー会（1回／月） ・ 看護部部内感染対策委員会（1回／月） 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 4 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>医療安全院内教育 4 回</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 （○・無）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「院内感染対策のための指針」に即した院内感染対策マニュアルを整備し、遵守状況を院内各部署のラウンドで確認している。 2. 1回／週、ICT（ICD、感染管理認定看護師（CNIC）、臨床検査技師、薬剤師の4職種）が院内各部署のラウンドを行い、微生物ラウンド、環境ラウンドを実施している。微生物ラウンドに際して、資料（細菌検査室で全部署直近2週間分のラウンド対象患者一覧表）を毎回準備している。 3. 感染対策支援システム（電子カルテ端末上）で毎日、血液培養陽性者、抗酸菌陽性者、新規多剤耐性菌検出患者等の報告を確認し、部署の感染対策について情報共有している。また、毎週1回以上、ICTミーティングを行っている。 4. 院内感染を疑う場合には適宜、感染制御部内で連携し、関係部署と調整し対応している。 5. 行政への報告対応が必要な場合には、感染制御部内で連携し、関係部署と調整し対応している。 6. アウトブレイク等問題が発生した部署については、適宜介入し、当該部署のスタッフを対象に研修会を開催している。アウトブレイク介入事例については、病院職員に対して電子カルテ端末上で通知し、診療部長会、感染対策委員会、セーフティーマネジャー会を通じて感染対策についての周知徹底を図っている。 7. コロナ禍以降、2回/週のコロナ会議（感染対策委員会に準じたメンバー含む）を開催し、情報共有を図ると共に、諸々の感染対策についての諮問会議としている。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 18 回
<p>・ 研修の主な内容： 医療安全管理部：医療安全院内教育「医薬品の安全管理」</p> <p>薬剤部： ○注意すべき医薬品の取り扱い ○医薬品の管理および使用法（簡易懸濁） ○報道から学ぶ医薬品の安全管理 ○医薬品の有効性と安全性（血中コレステロール濃度の確認が必要な薬剤） ○持参薬の取り扱い ○医薬品の副作用（制吐剤） ○医薬品の有効性と安全性（化学療法） ○医薬品の安全管理 ○ハイリスク薬（インスリン製剤）の取り扱い ○抗がん剤の取り扱い ○プロポフォール（プロポフォール）の取り扱い ○サリドマイド製剤であるレブラミドの誤投与 ○ビーフリード輸液について ○トリルシティ皮下注の使用について ○エネフリード・抗がん剤について</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 （有・無） ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <p>○医薬品の採用：薬事委員会において、医薬品安全管理責任者の立場で採用の可否を審議 ○医薬品の管理：各部署で手順書業務確認表を用いて使用期限や管理状況などを確認、月単位で医薬品安全管理責任者が確認 麻薬、覚醒剤原料は業務開始時に理論在庫数と実在庫数が一致するかを確認 ○患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する事項：注射払出システムによるバーコード認証の導入 特にリスクの高い医薬品の調剤時は薬歴、病名を確認し、処方内容を検討 ○患者に対する与薬や服薬指導に関する事項：薬剤管理指導業務の推進 病棟薬剤業務の推進 処方薬の管理方法を看護師と協議 ○医薬品情報の収集・提供：医薬品情報室による情報収集と発信、副作用報告の一元管理 ○他施設との連携：持参薬の確認および退院時指導の推進、病診薬連携の推進 薬剤情報ネットワーク（VPCS）の活用</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （有・無） ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：</p> <p>Verorab（輸入狂犬病ワクチン）：海外渡航時、 ブリリアントブルーG（院内製剤）：黄斑疾患に対する硝子体手術時の内境界膜染色</p>	

・ その他の改善のための方策の主な内容：

1. 与薬カードを1日分セット用から1週間分セット用に一部変更
2. 不眠時の推奨薬をベンゾジアゼピン系薬からオレキシン受容体拮抗薬などに変更
3. 同一成分で適応症および製剤的特徴が異なる医薬品の表示を工夫
(例サラゾスルファピリジン錠500mg (潰瘍性大腸炎) と同腸溶錠250mg (リウマチ))

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 25 回
<p>・ 研修の主な内容： 病棟、外来で多く使用されており中央管理を行っている輸液、シリンジポンプの研修を新人医師と看護師を対象に医療安全管理部と計画し実施している。 年2回中途採用の医師を対象に医療機器についてのセミナーを実施。 臨床工学技士全スタッフ対象に5項目（血液浄化装置、補助循環装置、人工呼吸器、除細動器、保育器）の研修の実施。 新規購入機器に対し対象部署スタッフに使用方法の研修の実施。</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無)</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容： 血液浄化装置、補助循環装置、人工呼吸器、保育器、 除細動器、輸液ポンプ、シリンジポンプ、生体情報モニタ、麻酔器、他全36項目の 保守点検を院内点検とメーカー点検として計画し実施している。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：特になし</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容： 医療機器のインシデント情報を医療安全委員会で情報共有し、各部署に対策内容を、 セーフティマネージャー会で報告。 電子カルテへ情報掲示し情報共有を行っている。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格 (医師・歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理者責任者は以下のように医療安全管理部門等を統括している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院長と連携し、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者の業務の管理・指導を行っている。 2. 医師・薬剤師・看護師の医療安全専従者(医療安全管理者)の業務の管理指導を行っている。 3. 専門分野責任者と連携し、各部門の医療安全を推進・指導している。 4. 医療事故発生時は、事故調査委員会、事故対策委員会における病院長の支援を行い、医療安全上の課題への対策について職員への周知、指導を行っている。 	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (11名)・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 薬剤部薬品情報室に終日担当者を設置して情報の整理・周知を一元化</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 適用外・禁忌使用処方について、調剤支援システムを用いて抽出する。</p> <p>・担当者の指名の有無 (有・無)</p> <p>・担当者の所属・職種： (所属：薬剤部 ， 職種：薬剤師)</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無)</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：毎月診療科・部署の医師・看護師に対してインフォームドコンセント記録を基に、説明日時・場所、同席者(医療者・患者の家族)、患者・家族の反応等が記載されているか等の事項について監査を行っている。不備が認められる場合はインフォームドコンセント委員会から部署に改善指導を行っている。</p>	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>① 退院カルテのチェック 退院後、病棟で「【入院】患者ファイル完成チェックリスト」に沿って、退院カルテについて紙保存と電子カルテ作成分の量的監査を行い、入院カルテ庫へ提出する。 入院カルテ庫では病棟でチェックされた「【入院】患者ファイル完成チェックリスト」を使用してダブルチェックを行い、不備があれば確認を依頼している。また、診療情報管理士が病歴管理システム入力時にも監査を行っており、退院サマリや手術記録などに不備があれば確認・訂正を依頼している。</p> <p>② 入院診療計画書 毎日、入院後6日目で入院診療計画書が電子カルテ上未提供の患者、または入院中で記載内容に不備がある患者について「入院診療計画書(6日目作成状況一覧)」を作成し、対象病棟へ配布している。また、翌日(入院後7日目)は前日配布したリストを基に再度チェックを行い、未提供の患者については診療情報管理士から病棟師長へ確認の連絡をしている。</p> <p>③ 委譲者オーダ・研修医カルテ未承認督促 前週の金曜日までの未承認を抽出し、週1回電話および未承認リスト送付にて督促。前月以前</p>	

の未承認が残っている医師を最優先で督促を行なっている。

④ カルテ自主点検

毎月1回医師によるカルテ自主点検を行っており、他科と自科のカルテ入・外各2名分を「カルテ記載点検リスト」に基づき点検し、フィードバックしている。また、診療情報管理士も同じリストを使用し、評価を行っている。

⑤ 診療情報管理士によるカルテ監査

毎日、入院中や退院翌日の患者を数名抽出し、医師の記載内容やインフォームドコンセント記録など「カルテ監査チェックリスト」に基づき監査を行い、医師にフィードバックしており、質的監査の向上に取り組んでいる。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況

有・無

- ・所属職員：専従（ 5 ）名、専任（ ）名、兼任（ 9 ）名
うち医師：専従（ 1 ）名、専任（ ）名、兼任（ 3 ）名
うち薬剤師：専従（ 1 ）名、専任（ ）名、兼任（ ）名
うち看護師：専従（ 2 ）名、専任（ ）名、兼任（ ）名
(注) 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること
- ・活動の主な内容：

医療安全管理部は、医療の安全に必要な指導、安全対策の推進、患者の相談に関する業務を行う。

1. 医療法施行規則に基づく業務
 - ア. 医療安全管理委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保管、その他医療安全管理委員会の庶務に関すること。
 - イ. 事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分なされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。
 - ウ. 患者や家族への説明など事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。
 - エ. 事故等の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに、必要な指導を行うこと。
 - オ. 医療安全に係る連絡調整に関すること。
 - カ. 高難度新規医療技術導入及び未承認新規医薬品等の使用の適否を決定する担当部門としての役割を担う。
 - キ. その他医療安全対策の推進に関すること。
2. 医療安全管理委員会で決定した方針に基づく業務
 - ア. 医療安全カンファレンスで用いられる資料及び議事録の作成と保管、その他医療安全カンファレンスの庶務に関すること。
 - イ. 医療安全管理部小委員会で用いられる資料及び議事録の作成と保管、その他医療安全管理部小委員会の庶務に関すること。
 - ウ. セーフティマネージャー会で用いられる資料及び議事録の作成と保管、その他セーフティマネージャー会の庶務に関すること。
 - エ. 事例検討会で用いられる資料及び議事録の作成と保管、その他事例検討会の庶務に関すること。
 - オ. 患者および家族からのご意見・ご要望相談（医療紛争を除く）の対応に関すること。
 - カ. 相談内容に応じた関係部署及び関係機関との連絡調整に関すること。
 - キ. その他医療安全管理部長が必要と認めた業務に関すること
 - ・H28年4月から毎月手術時の血栓予防策実施状況、インフォームドコンセントの実施状況、輸血時のPDA認証状況等についてモニタリングを行い、診療状況の把握に努めている。
 - ・院内ラウンドを毎月実施し、職員の医療安全に関する意識を把握し、意識向上のための方策を検討している。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（ 4 件）、及び許可件数（ 4 件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有・無 ）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療

技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (有・無)

・活動の主な内容：

1. 診療科の長から高難度新規医療技術の提供の適否について申請を受理したときは、申請の内容を確認するとともに、高難度新規医療技術評価委員会に対し、当該高難度新規医療技術の提供の適否、実施を認める条件等について意見を求める。
2. 評価委員会の意見を踏まえ、当該高難度新規医療技術の提供の適否等を決定し、申請を行った診療科の長に対し、その結果を適否結果通知書により通知する。
3. 当該高難度新規医療技術が適正な手続きに基づいて提供されているかについて、定期的及び術後の患者が死亡した場合、その他必要と認められるときは、診療録等の記載内容を確認する。
4. 高難度新規医療技術の提供が適正な手続きに基づいていたかについて、医療提供者の遵守状況の確認を行う。
5. 高難度新規医療技術の提供の適否等について決定したとき、及び医療提供者の遵守状況について確認したときは、その内容を病院長に報告する。
7. 高難度新規医療技術提供の評価に関する資料、議事録及び遵守状況確認記録は確認の日から5年間保存する。

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有・無)

・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 (有・無)

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数 (0件)、及び許可件数 (0件)

・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (有・無)

・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (有・無)

・活動の主な内容：

1. 担当部門の長は、診療部長から未承認新規医薬品等の使用の申請があったときは、当該申請の内容を確認するとともに、未承認新規医薬品等評価委員会に対し、当該未承認新規医薬品等の使用の適否、使用条件等について意見を求める。
2. 担当部門の長は、委員会の意見を踏まえ、未承認新規医薬品等の使用の適否、使用条件等について決定し、申請のあった診療部長に対しその結果を通知する。
3. 未承認新規医薬品等が適正な手続きに基づいて提供されているかについて、定期的及び術後の患者が死亡した場合、その他必要と認める場合には診療録の記載内容を確認する。
4. 未承認新規医薬品等が適正な手続きに基づいて提供されていたかについて、従業者の遵守状況の確認を行う。
5. 未承認新規医薬品等の提供の適否等について決定した場合及び従業者の遵守状況について確認した場合は、その内容を病院長に報告する。
6. 未承認新規医薬品等の評価に関する審査資料、議事録及び遵守状況確認記録は、確認の日から5年間保存しなければならない。

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有・無)

・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (有・無)

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 307 件

・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 99 件

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

診療科に対して、全死亡事例について「死亡・死産事例報告書」の医療安全管理部への提出を義務付けている。また、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したときは、特異事例として当該事象の発生の事実及び

発生前の状況に関して速やかな報告を求めている。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（有）（病院名：川崎医科大学附属病院）・無
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有）（病院名：川崎医科大学附属病院）・無
- ・技術的助言の実施状況

訪問側の所見及び受入れ側の改善策を記載した相互ラウンド実施報告書を作成し、相互に内容を確認している。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況
- 当該部署及び医療安全管理部で対応する。

⑫ 職員研修の実施状況

- ・研修の実施状況
- 別紙参照。

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

- ・研修の実施状況
- 【管理者研修（病院長）】
医療事故調査制度管理者・実務者セミナー
- 【医療安全管理責任者】
日本医療機能評価機構 2020年度特定機能病院管理者研修
医療事故調査・支援センター委託 令和2年度 管理者・実務者セミナー
- 【医薬品安全管理責任者】
令和2年度医薬品安全管理責任者等講習会
- 【医療機器安全管理責任者】
令和2年度国公立大学病院医療安全セミナー

（注）前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

- ・第三者による評価の受審状況
公益財団法人日本医療機能評価機構「病院機能評価(3rdG;Ver. 2.0)
令和2年2月7日、認定継続
- ・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況
福岡大学病院ホームページで公表
- ・評価を踏まえ講じた措置
公益財団法人日本医療機能評価機構への中間報告書提出

（注）記載時点の状況を記載すること

2020年度 医療安全実践セミナー

- * 講師の都合により、日程・内容等が変更になる場合があります。事前にご確認をお願いします。
- * 事前申込みが必要です。申込み用紙は、セミナー開催日の1ヶ月前に部署に配布いたします。

	開催日	時間	対象 定員	単位	テーマ予定	場所	
第1回	7月31日 (金)	17:30~18:30	全職員 30名	安全	「救急蘇生法 ～急変時対応/AED演習～」 講師:救命救急センター医師 救急看護認定看護師 集中ケア認定看護師	中止	本館 3階北
第2回	8月18日 (火)	17:30~18:30	全職員 30名	安全	「救急蘇生法 ～急変時対応/AED演習～」 講師:救命救急センター医師 救急看護認定看護師 集中ケア認定看護師	中止	本館 3階北
第3回	9月2日 (水)	17:30~18:30	医師 15名	安全	「CVCエコーガイド下穿刺ハンズオン」 講師:麻酔科医師		腫瘍センター ミーティング室
第4回	9月11日 (金)	17:30~18:30	全職員 30名	安全	「救急蘇生法 ～急変時対応/AED演習～」 講師:救命救急センター医師 救急看護認定看護師 集中ケア認定看護師	中止	本館 3階北
第5回	10月8日 (木)	17:30~18:30	全職員 20名	安全	「救急蘇生法 ～急変時対応/AED演習～」 講師:救命救急センター医師 救急看護認定看護師 集中ケア認定看護師		本館 3階北
第6回	11月26日 (木)	17:30~18:30	全職員 20名	安全	「救急蘇生法 ～急変時対応/AED演習～」 講師:救命救急センター医師 救急看護認定看護師 集中ケア認定看護師	中止	本館 3階北
第7回	12月3日 (木)	17:30~18:30	全職員 20名	安全	「安全な輸血療法の実施(演習)」 講師:学会認定・臨床輸血看護師		新館 多目的室
第8回	12月15日 (火)	17:30~18:30	医師 15名	安全	「CVCエコーガイド下穿刺ハンズオン」 講師:麻酔科医師		新館 多目的室
第9回	1月21日 (木)	17:30~18:30	全職員 20名	安全	「救急蘇生法 ～急変時対応/AED演習～」 講師:救命救急センター医師 救急看護認定看護師 集中ケア認定看護師	中止	本館 3階北
第10回	3月10日 (水)	17:30~18:30	医師 15名	安全	「CVCエコーガイド下穿刺ハンズオン」 講師:麻酔科医師		新館 多目的室

安全の医療安全研修「1単位」として認定されます。

主催 : 医療安全管理部

令和2年度 医療安全・感染対策 全体教育

	開催日	時間	テーマ	場所
第1回	7月3日(金)	17:00～17:30	安全 「医療安全2020」 講師:藤田昌樹先生(医療安全管理責任者、医療安全管理部 部長)	RI講義棟
		17:30～18:00	感染 「感染制御2020」 講師:高田徹先生(感染制御部 部長) :橋本文代先生(感染対策担当管理者)	
第2回	8月20日(金)	17:00～17:30	安全 「医薬品の安全管理」 講師:川原義弘先生(医薬品安全管理責任者、副薬剤師長) 「医療ガス管理について」 講師:浜内和也先生(医療機器安全管理責任者)	RI講義棟
		17:30～18:00	感染 「抗菌薬の適正使用」 講師:戸川 温先生(感染制御部 講師) :塩塚昭一先生(感染制御部 薬剤師)	
第3回	9月4日(金)	17:00～18:00	安全 「医療安全とモニタリング」 講師:鮎澤純子先生(九州大学)	RI講義棟
第4回	10月13日(火)	17:00～17:30	安全 「医療従事者が知っておくべき放射線の知識」 講師:長町茂樹先生(医療放射線安全管理責任者)	RI講義棟
		17:30～18:00	安全 「インフォームドコンセントについて」 講師:川崎弘昭先生(インフォームドコンセント委員会委員長) :中村伸理子先生(医療安全管理部 弁護士)	
第5回	12月1日(火)～		感染 「インフルエンザと新型コロナウイルス」 講師:戸川温先生(感染制御部 講師) :橋本文代先生(感染対策担当管理者)	電子カルテ、オンラインによる視聴のみ
第6回	令和3年3月4日(木)	17:00～18:00	感染 「COVID-19感染症が影響を及ぼした感染症診療」 講師:下野信行先生(九州大学病院)	メディカルホール

- 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、各回の参加者を限定いたします。
各回終了後に「動画」を電子カルテ・オンラインで視聴出来ます。
なお、感染対策教育は医療安全教育の開催にあわせて随時追加となります。

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	有・無 <input checked="" type="radio"/> 有
<p>・合議体の主要な審議内容</p> <p>福岡大学病院診療部長会</p> <p>(1) 病院の診療、教育及び研究に関する事項</p> <p>(2) 病院運営に関する事項</p> <p>(3) その他病院長が必要と認めた事項</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況</p> <p>医局等、部署単位で所属長から回覧等により周知されている。</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無 (有 <input checked="" type="radio"/> 無)</p> <p>・公表の方法</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無 (有 <input checked="" type="radio"/> 無)</p>	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
岩崎 昭憲	○	医師	病院長
長谷川 傑		医師	副病院長
藤田 昌樹		医師	副病院長
鍋島 茂樹		医師	副病院長
中川 朋子		看護師	副病院長
岳 弘司		事務職員	事務長
高松 泰		医師	腫瘍・血液・感染症内科部長
川浪 大治		医師	内分泌・糖尿病内科部長
岩崎 昭憲 (兼務)		医師	循環器内科部長
平井 郁仁		医師	消化器内科部長
升谷 耕介		医師	腎臓・膠原病内科部長
藤田 昌樹 (兼務)		医師	呼吸器内科部長
坪井 義夫		医師	脳神経内科部長
川崎 弘詔		医師	精神神経科部長
永光信一郎		医師	小児科部長
長谷川 傑 (兼務)		医師	消化器外科部長
岩崎 昭憲 (兼務)		医師	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科部長
山本 卓明		医師	整形外科部長
高木 誠司		医師	形成外科部長
井上 亨		医師	脳神経外科部長
和田 秀一		医師	心臓血管外科部長
今福 信一		医師	皮膚科部長

羽賀 宜博		医師	腎泌尿器外科部長
宮本 新吾		医師	産婦人科部長
内尾 英一		医師	眼科部長
坂田 俊文		医師	耳鼻咽喉科部長
吉満 研吾		医師	放射線科部長
秋吉浩三郎		医師	麻酔科部長
近藤 誠二		医師	歯科口腔外科部長
鍋島 一樹		医師	病理部長
小川 正浩		医師	臨床検査部長
平井 郁仁 (兼務)		医師	内視鏡部長
熊川みどり		医師	輸血部長
吉満 研吾		医師	放射線部第一部長
長町 茂樹		医師	放射線部第二部長
山本 卓明 (兼務)		医師	手術部長
廣瀬龍一郎		医師	栄養部長
鎌田 聡		医師	リハビリテーション部長
升谷 耕介 (兼務)		医師	血液浄化療法センター長
吉田陽一郎		医師	医療情報部長
石倉 宏恭		医師	救命救急センター長
宮本 新吾 (兼務)		医師	総合周産期母子医療センター長
鍋島 茂樹 (兼務)		医師	総合診療部長
神村 英利		薬剤師	薬剤部長
中川 朋子 (兼務)		看護師	看護部長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・**無**）
- ・ 公表の方法

- ・ 規程の主な内容

福岡大学病院長職務権限規程

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

施設長である病院長をトップとし、副病院長と事務長とともに執行部を結成している。執行部で執り行われる病院経営戦略会議では事業計画が立案される。立案された事業計画は、それぞれの関連委員会にて審議され、その後、病院の最高意思決定機関である診療部長会にて審議の上、承認される。承認された事業は関連部署にて実施される。診療科ならびに診療各部、看護部、事務部は、病院の基本理念を理解し、執行部の運営方針に協力する。実施の結果はそれぞれの関連委員会委員長によって診療部長会にて報告される。

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

岩崎病院長 : 令和2年度特定機能病院管理者研修
厚生労働省委託事業トップマネジメント研修
新春トップマネジメントセミナー2021
医師の働き方改革緊急セミナー（全国医学部長病院長会議主催）

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	(有) 無
<p>・監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>1. 監査対象期間の医療安全管理者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の業務実績についてヒアリングと記録を用いて監査する。</p> <p>2. 医療安全管理部門の各委員会、カンファレンス、活動内容について当事者からのヒアリングと議事録及び実施記録を用いて監査する。</p> <p>3. 必要に応じ、病院長及び開設者に対し、医療に係る安全については是正措置を講ずるよう意見を表明する。</p> <p>4. 管理者は業務結果について病院ホームページに公表する。</p> <p>・監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ((有) 無)</p> <p>・委員名簿の公表の有無 ((有) 無)</p> <p>・委員の選定理由の公表の有無 ((有) 無)</p> <p>・監査委員会に係る内部規程の公表の有無 (有 (無))</p> <p>・公表の方法： 病院ホームページ</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
横山 晋二	久留米大学病院	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有 (無)	1
二田 水裕子	久留米大学病院		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有 (無)	1
富田 康裕	久留米大学病院		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有 (無)	1
坪井 義夫	福岡大学病院		院内監査委員	(有) 無	1
林 覚竜	南蔵院		医療を受ける者その他の医療従事者以外の者	有 (無)	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容
福岡大学病院内部監査室 平成18年4月1日設置
- ・ 専門部署の設置の有無 (有 ・ 無)
- ・ 内部規程の整備の有無 (有 ・ 無)
- ・ 内部規程の公表の有無 (有 ・ 無)
- ・ 公表の方法

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 理事会 ・ 会議体の実施状況（年 7 回） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（有・無）（年 6 回） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（有 無） ・ 公表の方法 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
理事会に同じ			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年 5 件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法 <p>福岡大学病院安全管理マニュアル、電子カルテインフォメーション、医療安全ポケットマニュアルに記載している。</p>

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
<p>・情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>近隣の地域に対する情報発信として、各種セミナーを開催している。</p> <p>1つ目は、医療連携の促進・強化を目的として、福岡市医師会及び城南区医師会との共催で行う「福岡大学病院メディカルセミナー」と糸島医療圏の医療関係者を対象とした「糸島医師会・福大病院 地域連携学術講演会」である。このセミナーは、各診療科の診療技術や研究内容、病院として取り組んでいる医療体制等について、当院の医師が講演やパネルディスカッションを行うもので年4回開催している。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の終息が予測できないことから「福岡大学病院メディカルセミナー」の1講演のみWEB開催し、残り3講演は今年度へ順延とした。メディカルセミナーは新たに募集し、令和3年度は4講演を計画している。</p> <p>2つ目は、地域の一般市民を対象とした「学んで予防！《福大病院 健康セミナー》」である。このセミナーは、城南区医師会及び早良区医師会、さらには城南区役所、城南保健所、城南区の各自治協議会・各公民館及び早良区役所、早良区保健福祉センター、早良区の各公民館に協力いただき、地域の方が知りたいと思っている「健康や病気の予防」をテーマに、当院の医師と城南区医師会推薦の医師との協同で2ヶ月に1回程度開催しており、各回200～300名の地域住民の参加がある。また、29年度からは早良区医師会にも協力いただくことで、対象地域を広げてより多くの方に聴講いただく機会を作っている。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の終息が予測できないことから6回の開催予定の内3講演は中止し、2講演はYouTube配信として実施した。令和3年度は5講演のYouTube配信のうち3講演を開催した。</p> <p>3つ目は、地域がん診療拠点病院として、がん患者やそのご家族、そして一般市民を対象に「福岡大学病院がんセミナー」を開催している。このセミナーは、がん治療の最前線の情報や各種がんの診療・治療・手術等の診療技術に関すること、また、がん治療中の薬物療法や食事療法、治療中の社会生活に関することなど、がんについてあらゆる知識や情報を発信している。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の終息が予測できないことから10回の開催予定の内1講演のみの開催となった。令和3年度はYouTube配信による5講演を予定しており、1講演を9月に開催した。</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
<p>・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>2科以上の診療科がセンターとして外来診療を行っている。</p> <p>「腎・泌尿器・膠原病センター」→腎臓・膠原病内科、腎泌尿器外科</p> <p>「消化器センター」→消化器内科、消化器外科</p> <p>「呼吸器センター」→呼吸器内科、呼吸器・乳腺内分泌・小児外科</p> <p>「女性診療センター」→産婦人科、呼吸器・乳腺内分泌・小児外科</p> <p>「皮膚科・形成外科・美容医療センター」→形成外科、皮膚科</p> <p>「ハートセンター」→循環器内科、心臓血管外科</p> <p>「小児医療センター」→小児科、小児外科</p> <p>「認知症疾患医療センター」→精神神経科、脳神経内科</p>	